

沖縄本部町瀬底方言の助詞

内間, 直仁

(出版者 / Publisher)

法政大学沖縄文化研究所

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

琉球の方言 / 琉球の方言

(巻 / Volume)

8

(開始ページ / Start Page)

31

(終了ページ / End Page)

104

(発行年 / Year)

1983-12-20

(URL)

<https://doi.org/10.15002/00012726>

沖縄本部町瀬底方言の助詞

内 間 直 仁

I はじめに

現代共通語においても、助詞のはたらきについては十分に明らかにされていない。助詞が構文上重要なはたらきをしているということは誰しも認めるところであるが、構文上どのようなはたらきをしているのかということになると、各説まちまちである。助詞は観念語と観念語の関係を示す関係語（山田孝雄）、文節を構成する付属語（橋本進吉）、話手の立場を表現する語（時枝誠記）、実質概念と実質概念の関係を示し、文の成分を構成する関係構成語（渡辺実）などと、各文法論によってみかたが異なってくる。

助詞のみかたがこのように各文法論で異なるのは、助詞が文の構造と密接にかかわっているからである。従って、助詞の研究は、同時に文の構造をどうとらえるか、文とはなにかという文法上の難問に逢着せざるをえないことになる。文とその構造のとらえ方によって、助詞の分類やそのはたらきについてのみかたも異なってくる。助詞の研究で定説が見出しがたい要因の一つがそこにある。

共通語における助詞の研究は概略以上のものであるが、琉球方言における助詞の研究は、まだ各地域の共時的実態を報告する段階である。琉球方言における助詞研究の基礎として、各地域の実態を明らかにすることは重要である。これまでも諸先学によってあるていど明らかにさ

れてきているが、まだ十分とはいえない。本誌『琉球の方言』でも毎回野原三義氏が各地の実態を報告している。

これら一連の助詞研究の一助にでもなればと考へ、ここでは本部町瀬底方言の助詞について、まだ十分に整理されているとはいえないながらも、報告を行なうことにした。資料はほとんど筆者の内省によるものである。

II 瀬底方言の助詞概説

1 助詞の種類

瀬底方言には下記のような助詞が認められる。

(1) 準体助詞

ji(の), gara(かやら, かなんぞ)

(2) 並列助詞

tu(と), nuja(のや, やら), ka(か), jara(やら), tyka(とか)

(3) 格助詞

ga(が), nu(が), ne:(に, へ,), ga(に, 目的), tu(と), ŋgati(tji)(へ), hara(から), jo:kan(より), ji(sai)(で), ne:ti(で, 場所), ri(と, 引用)

(4) 副助詞

bake:(ばかり), mari:(gari:)(まで), ka(まで), niga:(など, なんぞ), nre:(など), kure:(ぐらい, あたり),

?atai (あたり, ぐらい), na: (ずつ, ぐらい), ntʃa: (ぼっち, だけ), tʃun (さえ), jatin (でも)

(5) 係助詞

ja (は), n (も), run (ぞ, なんぞ), ru (ぞ), ga (か)

(6) 連体助詞

ga (の), nu (の)

(7) 接続助詞

ba (ば), ne: (と), figa (のに, けれども), munnu (ものを), gutui (のに), tu (ので, から), gafina: (ganna:) (ながら), saku: ja (のなら), te:kan (te:n, tin) (ても)

(8) 終助詞

ba: (わけ), figa (のに), mu (ものを), na (な, 禁止), ga (か, 疑問), gaja: (かしら), ban (だもの), mi (か, 疑問), ti: (~したか, 過去疑問), sami (かね, たしかめ), se: (~でしょう), ji: (ね), i (ni) (か, 疑問), na: (か, 疑問), ro: (ぞ), jo: (よ), te: (だよ, ~にちがいない), sa (さ, ね, よ), ja: (ね, よ), ʃa: (目下への働きかけ), sai (目上への働きかけ), ba (聞き手への働きかけ)

以上の中から, 次のものは間接助詞として認めてもよい。

ro: (ぞ), jo: (よ), te: (だよ), sa (さ, ね, よ), ja: (ね, よ), ʃa: (目下への働きかけ), sai (目上への働きかけ), ba (聞き手への働きかけ)

2. 助詞どうしの相互関係

各助詞どうしの関係としては, およそ次のよ

うなことが認められる。

(1) 準体助詞の直後には, 並列助詞, 格助詞, 副助詞, 係助詞, 連体助詞が来ることができる。

haku ʃi tu jumu ʃi nu ?ain (書くのと読むのとがある)

ʃikai ʃi bake: muttʃi?ike: (使うものばかり持って行け)

haku ʃi ja maʃi ro: (書くのはよい) tui ʃi nu mun (取る人のものだ)

(2) 並助詞の直後には, 格助詞, 副助詞, 係助詞, 連体助詞が来ることができる。

?ari: tu wan tu ga wuin (彼と私とがいる)

ti: tu ʃisa tu bake: ?arajun (手と足とばかり洗う)

?ari: tu wan tu ja wuin (彼と私とはいる)

?ari: tu ?uri: tunu naha (彼とこれとの仲)

ただし, 格助詞, 副助詞は並列助詞の直前に来る場合もある。

nagu ʃgati tu naʃa ʃgati muttʃi-?ikun (名護へと那覇へ持って行く)

ti: bake: tu ʃisa bake: ?arajun (手ばかりと足ばかり洗う)

(3) 格助詞の直後には, 副助詞, 係助詞, 連体助詞が来ることができる。

?ari: ga bake: mi:n (彼がばかり見る)

?ami: nu mari: ʃuin (雨がまで降る)

?ari: ga ja nain (彼がはできる)

?ari: ga ru nairu (彼ができるんだ)

?uja tu nu naha (親との仲)

naʃa ʃgati nu mun (那覇へのもの)

ただし、副助詞は格助詞の直前に来ることができる。

?ari: bake: ga nokojun (彼ばかりが残る)

ki: bake: nu harijun (木ばかりが枯れる)

tju: mari: ne: ?ju:n(人までに言う)

?uja niga: tu ?ikun(親などで行く)

fidga mari: ōgati tiŋke:sun(兄までへ手向う)

また、格助詞 hara(から)も副助詞的性格をもち、その前後に他の格助詞が来ることができる。

?ja: ga hara waffen(君がから悪い)

?ja: hara ga waffen(君からが悪い)

?ami: nu hara ōuin(雨がから降る)

?ami: hara nu ōuiŋadgimain(雨から降りはじめ)

?uja ne: hara ?jun(親から言う)

fidga hara ne: ?jun(兄からに言う)

(4) 副助詞の直後には、係助詞、連体助詞が来ることができる。

midgi bake: ja numa ra n(水ばかりは飲めない)

nagu mari: ga ?iku:ra(名護まで行くのかしら)

saki niga: ru numu:ru(酒などを飲むのだ)

jama bake: nu ūima:(山ばかりの島)

nagu mari: nu mitŋi(名護までの道)

副助詞の前後には並列助詞、格助詞が来ることができる。

並列助詞—副助詞

ma: tu ?uŋi tu bake: ūikanajun

(馬と牛ばかり飼う)

ti: nuja ŋisa nuja mari: ?ara-jun(手やら足やらまで洗う)

格助詞—副助詞

?uja tu bake: ?ikun(親とばかり行く)

nagu ōgati mari: ?ikun(名護へまで行く)

副助詞—並列助詞

ŋaru bake: tu ?umi bake: ?ikun

(畑ばかりと海ばかり行く)

saki bake: tuka taba:ku bake:

ho: jun(酒ばかりとか煙草ばかり買う)

副助詞—格助詞

?uttu bake: tu ?aŋibun(弟ばかりと遊ぶ)

ŋaru mari: ōgati muttŋi?ikun(畑へまで持っていく)

また、副助詞どうしは重なることもある。

midgi bake: niga: ja numa ra n(水ばかりなどは飲めない)

midgi bake: tjun numa sa n(水ばかりさえ飲まない)

nagu mari: nre: ?iki ju:sun(名護までなど行ける)

?un ?atai tjun nara n(これぐらいさえできない)

(5) 係助詞は、準体助詞、並列助詞、格助詞、

副助詞、接続助詞の直後に来る。

?iku ūi ja jaŋŋen(行くのはたやすい)

ma: ka ?uŋi ka ja ūikanajun(馬か牛かは飼う)

?uja ne: ja ?jun(親には言う)

nagu mari: ja ?ikun(名護までは行く)

haki: ba ja nara n ūiga(書くといけないが)

haki ne: ga naira(書かないといけな

いかしら)

(6) 連体助詞は、準体助詞、並列助詞、格助詞、副助詞の直後に來ることができる。

hoi si nu mun je: sa (買う人のものだ)

?ufi tyka nu tfinu: (牛とかの角)

?uja ŋgati nu mun (親へのもの)

wugi bake: nu φaru (砂糖きびばかりの畑)

III 瀬底方言の助詞

1. 準体助詞

準体助詞は体言に準じて用いられるもので、そのついた全体も体言あつかいをうける。

1. 1 si (の)

si (の)は、それ自体体言的資格をもっており、どちらかといえば、むしろ形式体言的である。従って、文脈によっては、「こと」「もの」「人」などの意を表わす。

【うける形式】

共通語の準体助詞の「の」は、活用語の連体形、連体詞、体言または体言あつかいのものをうけるが、琉球方言の si (の)は、活用語の準体形のみをうけ、体言をうけえないところに特徴がある。用例は〔接する形式〕のところで示す。

【接する形式】

1) 並列助詞に接する

haku: si tu jumu: si tu nu:
maffe: ga (書くのと読むのとどっちがよいか)

mi: si nuja kiku: si nuja gan-
ri: n (見るのや聞くのやたくさんある)

haku: si ka jumu: si muttŋiko:
(書くものか読むものもってこい)

numu: si jara ke: si jara man-
ri:n (飲むものやら食うのやらたくさんある)
takafe: si tyka jaffe: si tyka
?iru?iru ?ain (高いものとか安いものとかいろいろある)

2) 格助詞に接する

?ju: si ga su: sa (言う人がするよ)
haku: si nu wassen (書く人が悪い)
he:ku tui si ne: ki:jun (早く取る人にあげる)

ke: si tu mandgi tattun (食べると同時に立つ)

?uja n kutu su: si ŋgati ki:jun
(親のことをする人へあげる)

he:ku ku: si hara φadzimijun (早く来る人からはじめる)

tare:ma su: si jo:kan jonna: se:
(すぐするよりゆっくりしなさい)

?ari: ga sykoi si si mani?a:jun
(彼がつくるので間に合う)

?uri: ja haku: si ri ?ju:tan (これは書くものと言っていた)

3) 副助詞に接する

jumu: si bake: muttŋi?ike: (読むものばかり持っていけ)

haku: si mari: jamin (書くのまでやめる)

?ari: ga ?afibu si niga: ja ?u-
tŋyke: (彼が遊ぶものなどはおいておけ)

numu si nre: ?ai gaja: (飲むものなどあるかしら)

jumu: si kure: ja nai su:ru (読むことぐらいはできるでしょう)

mi: si ʔatai ja nai su:ru (見る
ことぐらいはできるでしょう)

ke: si tʃun ne:n (食べるものさえない)

numu: si jatin ne:n (飲むものなども
ない)

4) 係助詞に接する

haku: si ja ʔain (書くのはある)

haku: si n ʔain (書くのもある)

haku: si run ʔai ne: simun (書く
のなんぞあればいいよ)

haku: si ru ʔairu (書くのがあるのだ)

haku: si ga ʔaira (書くのがあるのかしら)

5) 連体助詞に接する

haku: si nu mun (書く人のものだ)

tui si ga mun (取る人のものだ)

1, 2 gara (かやら, かなんぞ)

対象を漠然とさす意を表わす。

【うける形式】

1) 疑問詞をうける

nu: gara ho:jun (なにかを買う)

ra: gara ʔgati ʔikun (どこかへ行く)

ta: gara so:ti ʔike: (誰かつれてい
きなさい)

【接する形式】

1) 並列助詞に接する

nu: gara jara ʔui gara jara ʔo-
hofen (なんとかやかんとかやら多い)

ra: gara ka ne: ʔain jo (どこか
にあるよ)

nu: gara jara ʔui gara jara ʔi-
tʃunafen (なんとかやかんとかやらで忙しい)

nu: gara tyka ʔui gara tyka ri-
tʃi mutʃikafen (なんとかかんとかでむずか

しい)

2) 格助詞に接する

ta: gara ga ʔikun jo: (誰かが行く
よ)

ra: gara nu jamun jo: (どこかが痛
むはずだよ)

nu: gara ne: tʃikkakijun (なにかに
躓く)

nu: gara tu he:jun (なにかと換える)

ta: gara ʔgati ki:jun (誰かへあげる)

ra: gara hara ku:n (どこからか来る)

nu: gara jo:kan tʃu:fen (なにかより
強い)

nu: gara si sukojun (なにかで作る)

ra: gara ne:ti ʔafibun (どこかで遊
ぶ)

nu: gara ri ʔjun (なんとかという)

3) 副助詞に接する

nu: gara bake: ho:jun (なにかなど
ばかり買う)

nu: gara mari: mutʃiku: ban (な
にかまで持ってくるよ)

nu: gara niga: ʔidʒafe: (なにかな
ど出しなさい)

ra: gara nre: ʔike: (どこかなどへ行
け)

nu: gara kure: ʔare: sa n ni (な
にかなどあるでしょう)

nu: gara ʔatai ʔare: sa n ni
(なにかなどあるでしょう)

ra: gara na: ʔidʒitʃe: sa (どこか
など行ってきたんだね)

nu: gara tʃun ne:n (なにかさえない)

nu: gara jatin mutʃiko: (なにかで
ももってこい)

4) 係助詞に接する

nu: gara ja ?ain jo: (なにかはあるよ)

nu: gara ru ?airu (なにかがあるのだ)

nu: gara ga ?aira (なにかがあるのかしら)

5) 連体助詞に接する

nu: gara nu φ_uta (なにかの蓋)

ra: gara nu t_u: (どこかの人)

2. 並列助詞

別個で対等の概念を結びつけるはたらきがある。別個で対等であるがゆえに、先行概念と後行概念の入れ替えが可能である。

2. 1 tu (と)

同趣の概念を対等の関係で列挙する。

【うける形式】

1) 体言および準体助詞をうける

?ja: tu wan ga ?ikun (君と私が行く)

ma: tu ?ufi nu wuin (馬と牛がいる)

準体助詞の用例は「準体助詞」の項参照。

2) 格助詞をうける

?ari: ga tu wan ga ?ikun (彼<が>と私が行く)

ma: nu tu ?ufi: nu ke:n (馬<が>と牛が食う)

?uja ne: tu kwa: ne: ?jun (親<に>と子に言う)

nagu θgati tu naφa θgati nu t_u: (名護へと那覇への人)

nagu hara tu naφa hara nu t_u: (名護からと那覇からの人)

3) 副助詞をうける

me: bake: tu ?atu bake: ki:

f_ikijun (前ばかりと後ばかり気をつける)

nagu mari: tu naφa mari: ?idzi-kun (名護までと那覇まで行ってくる)

me: niga: tu ?atu niga: ki:

f_ikiire: (前などと後など気をつけなさい)

?an ?atai tu ?un ?atai ja nain (あのぐらいとこのぐらいはできる)

ti:t_u na: tu ta:t_u na: wakijun (一つずつと二つずつ分ける)

4) 接続助詞の一部をうける

hana:dzi numi: ba tu ke: ba re: gaja: (必ず飲めばと食べればであろうか)

?iki gafina: tu ki: gafina: juin (行きながらと来ながらよる)

【接する形式】

1) 格助詞に接する

?ari: tu ?uri: tu ga wui sa (あれとこれとがいるよ)

?ami: tu hadzi tu nu t_u:sen (雨と風とが強い)

?uja: tu t_o:re: tu ne: ?jun (親と兄弟とに言う)

tugu:t_u tu nagu tu θgati ?ikun (渡久地と名護とへ行く)

nagu: tu naφa tu hara ku:n (名護と那覇とから来る)

?ari: tu ?uri: tu jo:kan takafen (あれとこれとより高い)

kumi: tu mugi: tu fi sykojun (米と麦とで作る)

nagu: tu naφa tu ne:ti ho:jun (名護と那覇とで買う)

nagu: tu naφa tu ri ?jun (名護と

那覇とと言う)

2) 副助詞に接する

ti: tu ɕisa tu bake: ʔarajun (手と足とばかり洗う)

ti: tu ɕisa tu mari: ʔarajun (手と足とまで洗う)

ti: tu ɕisa tu niga: jamasun (手と足となど痛める)

ʔufi: tu ma: tu nre: ʃikanajun (牛と馬となど飼う)

ʔufi: tu ma: tu kure: ja ʃikana-jun (牛と馬とぐらいは飼う)

nagu: tu naɸa tu ʔatai ja ʔikun (名護と那覇とぐらいは行く)

ti:ʔji na: tu ta:ʔji na: ɸagun (一つと二つずつ配る)

ti: tu ɕisa tu ʔfun ʔarara n (手と足とさえ洗わない)

ʔari: tu ʔuri: tu jatin ʃimun (あれとこれとでもよい)

3) 係助詞に接する

ʔja: tu wan tu ja nokoin (君と私とは残る)

ʔari: tu ʔuri: tu n ʔikun (あれとこれとも行く)

ʔari: tu ʔuri: tu run ʔiki ne: nara n (あれとこれとなんぞが行くといけない)

ʔari: tu ʔuri: tu ru so:tiʔikuru (あれとこれとをつれていくのだ)

ʔari: tu ʔuri: tu ga so:tiʔikura (あれとこれとをつれていくのかしら)

4) 連体助詞に接する

ʔari: tu ʔja: tu nu naha (彼と君との仲)

2. 2 nuja (のや、や、やら)

同趣のものが他にもあることを言外に示しながら、対等の事物概念や動作概念および情態概念などを列挙する。

【うける形式】

1) 体言および準体助詞をうける

ʔari nuja ɸuri nuja ʔitʃunafen (あれやこれやで忙しい)

ti: nuja ɕisa nuja jari nara n (手やら足やら痛くてならない)

準体助詞の用例は「準体助詞」の項参照。

2) 活用語の終止形をうける

hakun nuja haka n nuja ri ʔjun (書くのや書かないのやと言う)

takaʃen nuja ɕikufen nua ri ʔjun (高いの低いのという)

haka sun nuja juma sun nuja ri ʔjun (書かすの読ますのという)

3) 格助詞をうける

ʔari: ga nuja ɸuri: ga nuja mu-ʔʃikun (あれがやらこれがやら持つてくる)

ti: ne: nuja ʔjira ne: nuja nui-kurusun (手やら足やらへぬりたくる)

kwa: tu nuja ma:ga tu nuja ʔo:-jun (子とやら孫とやらけんかする)

ʔari ɸgati nuja ɸuri ɸgati nuja nu mun nu ʔuhofen (あれへやらこれへやらのものが多い)

ʔari hara nuja ɸuri hara nuja nu mun nu ʔuhofen (あれからやらこれからやらのものが多い)

4) 副助詞をうける

ti: bake: nuja ɕisa bake: nuja ri ʔjun (手ばかりやら足ばかりやらという)

nagu mari: nuja naɸa mari: nuja

ri ?jun (名護までやら那覇までやらという)
 ?an ?atai nuja ?un ?atai nuja
 ri ?jun (あのぐらいやらこのぐらいやらと
 いう)

ti:tfi na: nuja ta:tfi na: nuja
 kubajun (一つずつとか二つずつ配る)

5) 接続助詞 gafina:(ながら)をうける。

?iki gafina: nuja ki: gafina: ju-
 in (行きながらやら来ながらよる)

【接する形式】

1) 格助詞に接する

?uttu nuja sidga nuja ga wui mu
 (弟やら兄やらがいるものを)

ma: nuja ?ufi nuja nu manri:n
 (馬やら牛やらが多い)

ti: nuja ?isa nuja ne: ?ikijun
 (手やら足やらへつける)

šina nuja dšari nuja tu mandši-
 jun (砂やら砂利やらと混ぜる)

?uttu nuja sidga nuja ŋgati mu-
 ttfi ?ikun (弟やら兄やらへ持って行く)

?uttu nuja sidga nuja hara ?ja:
 rin (弟やら兄やらから言われる)

?ifi nuja hani nuja jo:kan tfu:-
 sen (石やら鉄やらより強い)

ki: nuja raki nuja ši sukojun (木
 やら竹やらで作る)

ma: nuja ?ufi nuja ri ?jun (馬や
 ら牛やらという)

2) 副助詞に接する

ti: nuja ?isa nuja mari: jamun
 (手やら足やらまで痛む)

mami: nuja ?o:fa nuja niga: ?u-
 ijun (豆やら野菜やらなどを植える)

mami: nuja ?umu: nuja nre: ?ui-

ra (豆やら芋やらなどを植えよう)

hama nuja kwai nuja kure: ?ara-
 re (鎌やら鍬やらあたりを洗いなさい)

ta:tfi nuja mi:tfi nuja ?atai pha-
 ge: (二つやら三つやらぐらい配りなさい)

?ui nuja ?i:tfi nuja tfun wakara n
 (上やら下やらさえわからない)

ma: nuja ?ufi nuja jatin ka: n
 (馬やら牛やらでも食わない)

3) 係助詞に接する

kwa: nuja ma:ga nuja ja so:ti-
 ?ika n (子やら孫やらはつれていかない)

me: nuja ŋufi nuja n wakara n
 (前やら後やらもわからない)

ma: nuja ?ufi nuja run ke: ne:
 simun (馬やら牛やらなどが食べばよい)

ti: nuja ?isa nuja ru ?arairu
 (手やら足やらを洗うのだ)

ti: nuja ?isa nuja ga ?araira
 (手やら足やらを洗うのかしら)

4) 連体助詞に接する

sidga nuja ?uttu nuja nu mun
 ho: jun (兄やら弟やらのものを買う)

2, 3 ka (か)

いくつかの事物、動作、状態を列挙して、そ
 の中から一つをえらぶことを表わす。

【うける形式】

1) 体言および準体助詞をうける

?ari: ja dšinan ka sannan ka
 re:ru (あれは次男か三男かだ)

?uri: ja ?ifi ka hani ka re:ru
 (これは石か鉄かだ)

準体助詞の用例は「準体助詞」の項参照。

2) 活用語の準体形をうける

haku: ka jumu: ka sun (書くか読むかする)

takafe: ka çikufe: ka ju: wakara n (高いのか低いのかよくわからない)

haka su ka juma su ka sun (書かせるか読ませるかする)

3) 格助詞をうける

?ari: ga ka wan ga ?ikun (彼がか私が行く)

ma: nu ka ?ufi: nu ke:n (馬がか牛が食う)

?uja ne: ka ?uttu ne: ?jun (親にか弟に言う)

?umu: hadçi: ga ka wugi nagi: ga ?idzan (芋掘りにか砂糖きび収穫に行った)

?uja tu ka fidza tu ?idze:n jo: (親とか兄と行ったにちがいない)

nagu ðgati ka naða ðgati ?idzan (名護へか那覇へ行った)

nagu hara ka naða hara ku:n (名護からか那覇から来る)

?ari jo:kan ka ?uri jo:kan mafi (あれよりかこれよりよい)

kumi: fi ka mugi: fi sukojun (米でか麦で作る)

nagu ne:ti ka naða ne:ti ?ujun (名護でか那覇で売る)

hakun ri ka jumun ri ?jun (書くとか読むと言う)

4) 副助詞をうける

haki bake: ka jumi bake: sun (書きばかりか読みばかりする)

nagu mari: ka naða mari: ?ikun

(名護までか那覇まで行く)

tugu:tji niga: ka nagu niga: ?i-dze: sa (渡久地などか名護など行ったにちがいない)

ti: nre: ka çisa nre: ?arare: (手などか足など洗いなさい)

ta:tji kure: ka mi:tji kure: nain (二歳ぐらいか三歳ぐらいになる)

ta:tji ?atai ka mi:tji ?atai ðagun (二つずつか三つずつ配る)

ta:tji na: ka mi:tji na: ki:jun (二つずつか三つずつくれる)

5) 接続助詞の一部をうける

haki: ba ka jumi: ba fimu: sa (書けばか読めばよい)

?iki gafina: ka ki: gafina: jure: (行きながらか来ながら寄れ)

【接する形式】

1) 格助詞に接する

?ari: ka wan ka ga ?ikun (彼か私かが行く)

ma: ka ?ufi ka nu ke:n (馬か牛かが食う)

fidza ka ?uttu ka ne: ?itfuke: (兄か弟かに言っておけ)

fidza ka ?uttu ka tu ?ikun (兄か弟かと行く)

?uja ka tfo:re: ka ðgati ?itfe: sa (親か兄弟かへ言ったにちがいない)

?ui ka çitfa ka hara ku:n (上か下かから来る)

?uja ka tfo:re: ka jo:kan mafi (親か兄弟かよりよい)

kumi: ka mugi: ka fi sukojun (米

か麦かで作る)

nagu ka naɸa ka ne:ti ʔa:tan (名
護か那覇かで会った)

ʔja: ka wan ka ri ʔjun (君か私か
と言っていた)

2) 副助詞に接する

ʔuja ka ʔidʒa ka bake: tarugaki-
jun (親か兄弟かばかり頼りにする)

ʔufi ka ma: ka mari: ʃikanai
ju:sa n (牛か馬かまで飼うことができない)

ʔufi ka ma: ka niga: ʃikanajun
jo: (牛か馬かなど飼うよ)

taɸu: ka ʔju: ka nre: ho:tiko:
(蛸か魚かなど買ってこい)

taɸu: ka ʔju: ka kure: ʔare: sa
n ni (蛸か魚かぐらいはあるはずだ)

haku: ka jumu: ka ʔatai ja nain
(書くか読むぐらいはできる)

ti:tʃi ka ta:tʃi ka na: kubajun
(一つか二つかずつ配る)

ʔari: ka ʔuri: ka tʃun wakara n
(あれかこれかさえわからない)

saki: ka tabaku ka jatin ho:re:
(酒か煙草かでも買いなさい)

3) 係助詞に接する

ʔja: ka wan ka ja ʔika n ne:
nara (君か私かは行かなければならない)

ʔari: ka ʔuri: ka n wakara n
(あれかこれかもわからない)

ʔari: ka ʔuri: ka run ʔiki ne:
ʃimu ʃiga (あれかこれかがなんぞ行けば
よいのだが)

taɸu: ka ʔju: ka ru ʔairu (蛸か魚
かがあるのだ)

taɸu: ka ʔju: ka ga ʔaira (蛸か魚

かがあるのか)

4) 連体助詞に接する

pi:dʒa: ka ʔufi ka nu tʃinu: (山羊
か牛かの角)

2, 4 jara (やら)

同趣の事柄をいくつか例示する意を表わす。

【うける形式】

1) 体言および準体助詞をうける

ma: jara ʔufi jara manri:n (馬やら
牛やら多い)

ki: jara raki jara gadʒiri:n (木や
ら竹やらたくさん積んである)

準体助詞の用例は「準体助詞」の項参照。

2) 格助詞をうける

ʔari: ga jara ʔuri: ga jara mu-
ttʃikun (あれがやらこれがやらもってくる)

tui nu jara maja: nu jara ke:n
(鳥がやら猫がやら食う)

ti: ne: jara ʒisa ne: jara ʃi-
gajun (手やら足やらにつく)

ʔumu hadʒi: ga jara ku:sa hai ga
jara ʔikun (芋掘りにやら草刈りにやら行
く)

ʔuttu tu jara ʃidʒa tu jara ʔi-
kun (弟とやら兄とやら行く)

ʔuja ʔgati jara tʃo:re: ʔgati ja-
ra muttʃiʔikun (親へやら兄弟へやらもっ
ていく)

kwa: hara jara ma:ga hara jara
manri:n (子供からやら孫からやらたくさん
いる)

3) 副助詞をうける

ti: bake: jara ʒisa bake: jara
ʔarajun (手ばかりやら足ばかりやら洗う)

nagu mari: jara naɸa mari: jara
ri ?itʃi ?ikun (名護までやら那覇まで
やらと言って行く)

ti: kure: jara ɕisa kure: jara
?arare: (手あたりやら足あたりやら洗いな
さい)

ti:ʃi na: jara ta:ʃi na: jara
tuti ?ikun (一つずつやら二つずつやら取
っていく)

4) 接続助詞 gafina: (ながら)をうける
?iki gafina: jara ki: gafina: ja-
ra juin (行きながらやら来ながらやらよる)

【接する形式】

1) 格助詞に接する

?uttu jara ʃidʒa jara ga ?ikun
(弟やら兄やらが行く)

ti: jara ɕisa jara nu jari nara
n (手やら足やらが痛くてならない)

ʃidʒa jara ?uttu jara ne: haka
sun (兄やら弟やらに書かせる)

tʃo:re: jara ?itʃiku jara tu ʃiri-
ti ?ikun (兄弟やら従兄弟やらとつれだっ
ていく)

?uttu jara ʃidʒa jara ʋgati ?jun
jo: (兄やら弟やらへ言うよ)

kwa: jara ma:ga jara hara muru
?atʃimajun (子やら孫やらみんな集まる)

mugi: jara ?awa: jara jo:kan
takafen (麦やら粟やらより高い)

mugi: jara ?awa: jara ʃi sʏkojun
(麦やら粟やらで作る)

tugu:ʃi jara nagu jara ne:ti
?a: jun (渡久地やら名護やらで会う)

tugu:ʃi jara nagu jara ri ?jun
(渡久地やら名護やらという)

2) 副助詞に接する

ti: jara ɕisa jara bake: ?arai-
kurusun (手やら足やらばかり洗っている)

ti: jara ɕisa jara mari: jamasun
(手やら足やらまで痛める)

tʃo:re: jara ?itʃiku jara niga:
ku: ʃiga (兄弟やら従兄弟やらが来るよ)

ma: jara ?uʃi jara nre: ʃikana-
jun (馬やら牛やらなど飼う)

me: jara ɸuʃi jara kure: mutʃi-
kun (前の家やら後の家やらあたりからもつ
てくる)

mugi: jara mami: jara ʃun ?uira
n (麦やら豆やらさえ植えない)

?uttu jara ʃidʒa jara jatin mu-
tʃike: sa n ni (弟やら兄やらでも持つ
てくるのではないか)

3) 係助詞に接する

ma: jara ?uʃi jara ja wataʃi
ju:sa n (馬やら牛やらは渡すことができ
ない)

ma: jara ?uʃi jara n watasun (馬
やら牛やらも渡す)

ma: jara ?uʃi jara run wataʃi
ju:ʃi ne: ʃimun (馬やら牛やらなんぞ
渡すことができるとよい)

ma: jara ?uʃi jara ru watasuru
(馬やら牛やらを渡すのだ)

ma: jara ?uʃi jara ga watasura
(馬やら牛やらを渡すのであろうか)

4) 連体助詞に接する

kwa: jara ma:ga jara nu mun ru
?airu (子供やら孫やらのものがあるのだ)

2. 5 tʏka (とか)

事物、動作、状態などを例示的に並べあげるのに用いる。

【うける形式】

1) 体言および準体助詞をうける

mugi: tuka ?awa: tuka sukojun (麦とか粟とか作る)

ma: tuka pi:dza: tuka fikanajun (馬とか山羊とか飼う)

準体助詞の用例は「準体助詞」の項参照。

2) 活用語の終止形をうける。

hakun tuka jumun tuka ?jun (書くとか読むとか言う)

takafen tuka cikufen tuka ?jun (高いとか低いとか言う)

haka sun tuka juma sun tuka ?jun (書かせるとか読ませるとか言う)

3) 格助詞をうける

?umu hadsi: ga tuka kusa hai ga tuka ?gati ?idzan (芋掘りにとか草刈りにとかへ行った)

?uja ?gati tuka tfo:re: ?gati tuka nu mun (親へとか兄弟へとかのもの)

?ari hara tuka ?uri hara tuka nu mun nu ?uhofen (あれからとかこれからとかのものが多い)

4) 副助詞をうける

ti: bake: tuka ?isa bake: ?arajun (手ばかりとか足ばかり洗う)

nagu mari: tuka nafa mari: ?ikun (名護までとか那覇まで行く)

mugi niga: tuka ?awa niga: ?ui-jun (麦などとか粟などを植える)

?an kure: tuka ?un kure:

nai su:ru (あのぐらいとかこのぐらいできるでしょう)

?an ?atai tuka ?un ?atai ja nain (あのぐらいとかこのぐらいはできる)

ti:tji na: tuka ta:tji na: ?age: (一つずつとか二つずつ配りなさい)

5) 接続助詞 ba (ば), gafina: (ながら) をうける。

haki: ba tuka jumi: ba wakajun (書けばとか読めばわかる)

haki gafina: tuka jumi gafina: ka?ge: jun (書きながらとか読みながら考える)

【接する形式】

1) 格助詞に接する

?ja: tuka wan tuka ga ?iki ne: dzama ru nairu (君とか私とかが行くと邪魔になるだけだ)

?wa: tuka pi:dza: tuka nu nakun (豚とか山羊とかが鳴く)

me: tuka ?ufi tuka ne: ?ain (前とか後とかにある)

?uttu tuka fidza tuka tu ?afibun (弟とか兄とかと遊ぶ)

tugu:tji tuka nagu tuka ?gati ?i-dzan (渡久地とか名護とかへ行った)

nagu tuka nafa tuka hara ku:n (名護とか那覇とかから来る)

matji tuka rawan tuka jo:kan tju:sen (松とかラワンとかより強い)

kumi: tuka mugi: tuka fi suko-jun (米とか麦とかで作る)

nagu tuka nafa tuka ne:ti ho:jun (名護とか那覇とかで売る)

hakun ri tuka jumun ri tuka ?ju:tan (書くとか読むとか言っていた)

2) 副助詞に接する

sumu:tʃi tʃuka ʃimbun tʃuka bake:
jumun (書物とか新聞とかばかり読む)
sakibaru tʃuka me:baru tʃuka mari:
ʔikun (先畑とか前畑とかまで行く。先畑・前
畑は地名)

mugi: tʃuka ʔawa: tʃuka niga: ʔu-
ijun (麦とか粟とかなどを植える)

mugi: tʃuka ʔawa: tʃuka nre: ʔui
sa (麦とか粟とかなどを植えるさ)

hama tʃuka kwai tʃuka kure: ʔara-
re: (鎌とか鍬とかあたりを洗いなさい)

ʔari tʃuka ʔuri tʃuka ʔatai ja na-
in (あれとかこれとかぐらいはできる)

ʔumu: tʃuka de:kuni tʃuka tʃun ʔu-
ira n (芋とか大根とかさえ植えない)

ʔuttu tʃuka ʃidʒa tʃuka jatin so:-
tiko: (弟とか兄とかでもつれてこい)

3) 係助詞に接する

mami: tʃuka re:kuni tʃuka ja ʔu-
ira n (豆とか大根とかは植えない)

mami: tʃuka re:kuni tʃuka n ʔuira
n (豆とか大根とかも植えない)

ʔuttu tʃuka ʃidʒa tʃuka run wui
ne: ʃimun (弟とか兄とかなんぞいるとよ
い)

mami: tʃuka re:kuni tʃuka ru ʔuiru
(豆とか大根とかを植えるのだ)

mami: tʃuka re:kuni tʃuka ga ʔuira
(豆とか大根とかを植えるのかしら)

4) 連体助詞に接する

ʔuttu tʃuka ʃidʒa tʃuka nu mun
ho: jun (弟とか兄とかのものを買う)

3. 格 助 詞

格助詞は概念と概念との論理的関係を示すは

たらきがある。関係づけられる概念は、その相
互の関係づけによって、内容が限定される。

3, 1 ga (が)

主格を表わす

【うける形式】

1) 体言, とくに人を表わす代名詞, 代名詞的
に用いられた体言および人名等をうける。

waθ ga ʔikun (私が行く)

ʔja: ga hakun (君が書く)

nan ga jumun (あなたが読む)

ʔari: ga jumun (彼が読む)

ʔamma: ga ʔjun (母が言う)

dʒittʃa: ga ʔatʃikajun (父が叱る)

同じ人を表わす語でも, 話手との関係がうす
くなると, ga (が) や nu (が) でうけるよ
うになる。

dʒinan ga jumun (次男が読む)

dʒinan nu jumun (次男が読む)

2) 準体助詞をうける。

haku: ʃi ga waffen (書くのが悪い)

ただし, haku: ʃi (書くの) は nu (が)
にも接する。

haku: ʃi nu waffen (書くのが悪い)

3) 並列助詞をうける。

ʔari: tu ʔuri: tu ga wuin (あれと
これとがいる)

ʔuttu nuja ʃidʒa nuja ga wui ne:
ʃanafi: nara n (弟やら兄やらがいると
話ができない)

ʔari: ka wan ka ga ʔikun (彼か私
かが行く)

ʔari: jara wan jara ga ʔjun (彼
やら私やらが言う)

ʔuja tʃuka ʃidʒa tʃuka ga ʔi: ne:

kikun jo: (親とか兄とかが言うと聞くよ)

4) 格助詞 hara (から) をうける。

?unu ?atu hara ga maffen (このあとからが面白い)

?uma hara ga mutfikafen (ここからがむずかしい)

5) 副助詞をうける。

?ari baka: ga mi:n (彼ばかりが見る)

?ari mari: ga mi:n (彼までが見る)

?ari niga: ga nara n (彼などができない)

?ari ?atai ga nara n (彼ぐらいができない)

tjun (さえ) jatin (でも) はうけることができない。

【接する形式】

1) 格助詞 hara (から) に接する。

?ari: ga hara ?jun (彼がから言う)

?ja: ga hara φadgimire: (君がからはじめなさい)

2) 副助詞に接する。

?ari: ga bake: mi:n (彼がばかり見る)

?ari: ga mari: mi:n (彼がまで見る)

?ari: ga niga: miri: ba jurusa n (彼がなど見れば許さない)

?ari: ga nre: mi: ne: jurusa n jo: (彼がなどみれば許さないよ)

?ari: ga kure: mi:n jo: (彼があたり見るよ。彼がなど見るよ)

?ari: ga tjun mi:n (彼がさえ見る)

?ari: ga jatin mi:n (彼がでも見る)

3) 係助詞に接する。

?ari: ga ja nara n (彼がはできない)

?ari: ga n nain (彼がもできる)

?ari: ga run nai ne: simu figa

(彼がでもできるとよいのだが)

?ari: ga ru nairu (彼ができるのだ)

?ari: ga ga naira (彼ができるのかしら)

3, 2 nu (の)

主格を表わす。

【うける形式】

1) 体言をうける。主に人を表わす代名詞、代名詞的に用いられた体言・人名等以外の体言をうける。

?ami: nu φuin (雨が降る)

ki: nu harijun (木が枯れる)

2) 準体助詞をうける。

haku: fi nu ?ain (書くのがあるよ)

mi: fi nu ?ain (見るのがあるよ)

nu: gara nu ?ain (なにかがあるよ)

3) 並列助詞をうける。

hama: tu kwai tu nu ?ain (鎌と鍬とがある)

kwa: nuja ma:ga nuja nu wuin (子供やら孫やらがいる)

ma: ka ?wa: ka nu ke:n (馬か豚かが食う)

nu: jara φui jara nu ?uhofen (なんやかんやが多い)

kwa: tuka ma:ga tuka nu man-ri:n (子供とか孫とかが多い)

4) 格助詞 hara (から) をうける。

ki: hara nu hari φadgimain (木から枯れはじめる)

wugi: hara nu to:ri φadgimain (砂糖きびから倒れはじめる)

5) 副助詞をうける。

fi: bake: nu ?ain (巢ばかりがある)

?ami mari: nu φuin (雨までが降る)

ti: niga: nu jamun jo:(手などが痛むはずだよ)

?an kure: nu nai ne: maffe: figa
(あのぐらいできるといいのだが)

Çisa kure: nu jamun ja: (足などが痛いにちがいない)

?an ?atai nu nai ne: simun jo:
(あのぐらいができたらいよいよ)

?ikuyfi: na: nu ?ai ga (いくつずつあるのか)

tfun(さえ) jatin(でも)はうけえない。

【接する形式】

1) 格助詞 hara(から)に接する。

?ari: ja ?idgi: nu hara tfu:sen
(彼は意地がから強い)

?ari: ja ti: nu hara ?idgi:n(彼は手がから出る)

2) 副助詞に接する。

tfiburu nu bake: jamun(頭がばかり痛む)

tfiburu nu mari: jamun(頭がまで痛む)
ma: nu nre: ke:n jo:(馬がなど食うよ)

tfiburu nu niga: ru jamun jo:
(頭がなど痛むんだよ)

ma: nu kure: ke:n jo:(馬がなど食うよ)

ma: nu ?atai φain(馬のぐらい走る)

ma: nu tfun ka: n(馬がさえ食わない)

ma: nu jatin ka: n(馬がでも食わない)

3) 係助詞に接する。

maja: nu ja ka: n(猫がは食わない)

maja: nu n ka: n(猫がも食わない)

maja: nu run ke: ne: simun(猫が

でも食うとよい)

maja: nu ru ke:ru(猫が食うのだ)

maja: nu ga ke:ra(猫が食うのかしら)

3, 3 ne:(に)

動作・作用の帰着する目標を表わす。

【うける形式】

1) 体言をうける。

?uja ne: ?jun(親に言う)

nagu ne: wuin(名護にいる)

?uja ne: ?atjikara ri:n(親に叱られる)

juru ne: simasun(夜のうちにすます)

2) 動詞および動詞型助動詞の連用形をうける。

?iki ne: juti tura fe:(行きによってくれる)

?ika fi ne: jura fe:(行かせるときによらしなさい)

3) 準体助詞をうける。

?iku fi ne: ?adzikijun(行くのにあづける)

tui fi ne: ki:jun(取るのにあげる)

ta: gara ne: ?adzikijun(誰かにあづける)

4) 並列助詞をうける。

fidga tu ?uttu tu ne: haka sun
(兄と弟にとに書かせる)

?ari nuja φuri nuja ne: ?jun(あれやらこれやりに言う)

nagu ka naφa ka ne: wuin(名護か那覇かにいる)

ti: jara Çisa jara ne: nuin(手やら足やりに塗る)

?uja tuka tfo:re: tuka ne: ?adzi-kijun(親とか兄弟とかにあづける)

5) 格助詞 hara (から) をうける。

?uttu hara ne: tura fe: (弟からへあげなさい)

tudʒi hara ne: ?jun (妻からへ言う)

6) 副助詞をうける。

?ari bake: ne: ?jun (彼ばかりに言う)

tʃu: mari: ne: ?jun (人までに言う)

tʃo:re: niga: ne: ?jun jo: (兄弟などに言うよ)

ʃidʒa nre: ne: ?adʒikijun (兄などにあづける)

?ikʉtʃi: kure: ne: ?idʒa: ga (いくつぐらいに行ったか)

?un ?atai ne: makin na: (このぐらいに負けるか)

mi:tʃi na: ne: ?idʒe: sa (三歳頃に行ったよ)

tʃun (さえ) jatin (でも) はうけえない。

7) 接続助詞 gaʃina:(ながら) をうける。

?iki gaʃina: ne: ?itʃuke: (行きながら言っておけ)

【接する形式】

1) 格助詞 hara (から) に接する。

ti: ne: hara ?idʒitikon (手から出てくる)

?uja ne: hara ?jun (親から言う)

2) 副助詞に接する。

ʃaru ne: bake: wuin (畑にばかり居る)

?imi ne: mari: mi:n (夢にまで見る)

?imi ne: niga: mitʃe:n jo: (夢などに見たにちがいないよ)

?uja ne: nre: tarumun (親になど頼む)

ti: ne: kure: ?atajun (手になどあたる)

?an ne: ?atai makin na (彼にぐらい

負けるものか)

?ama ne: tʃun ne:n (あそこにさえない)

?ama ne: jatin ne:n (あそこにもない)

3) 係助詞に接する。

?ari ne: ja makin jo: (彼には負けるよ)

?ari ne: n makin (彼にも負ける)

?ari ne: run maki: ne: nara n (彼になんぞ負けたらいけない)

?ari ne: ru maki:ru (彼に負けるのだ)

?ari ne: ga maki:ra (彼に負けるのかしら)

3, 4 ga (に)

動作・作用の目的を表わす

【うける形式】

動詞および動詞型助動詞の連用形をうける。

haki: ga ?ikun (書きに行く)

narafi: ga ku:n (教えに来る)

haka ʃi: ga so:ti?ikun (書かせにつれていく)

【接する形式】

1) 並列助詞に接する。

haki: ga tu jumi: ga ?ikun (書きにと読みに行く)

mi: ga nuja ho:i ga nuja ?ikun (見にやら買いにやら行く)

?ai ga ka so:i ga ?idʒan (会いにかつれに行った)

?ui ga jara ho:i ga jara ?ikun (売りにやら買いにやら行く)

tamun tui ga tyka kusa hai ga ?ikytan (薪とりにとか草刈りに行った)

2) 格助詞の一部に接する。

narai ga hara ?ikun (習いから行く)
mi: ga jo:kan haki: ga ?iku: fi
mafi (見により書きに行くのがよい)

mi: ga ri ?jun (見にという)

3) 副助詞に接する。

?ai ga bake: ?ikun (会いにばかり行く)

?ai ga mari: ?ikun (会いにまで行く)

?ai ga niga: ?idge: sa (会いになど
行ったにちがいない)

?ai ga nre: ?idge: sa (会いになど
行ったにちがいない)

?ai ga kure: ?idge:n jo: (会いにあ
たり行ったにちがいない)

?ai ga tjun ?ika n (会いにさえ行か
ない)

?ai ga jatin ?ika n (会いにでも行
かない)

4) 係助詞に接する。

?ai ga ja ?ika n (会いには行かない)

?ai ga n ?ika n (会いにも行かない)

?ai ga run ?iki ne: nara n (会い
になんぞ行ってはいけない)

?ai ga ru ?iku:ru (会いに行くのだ)

?ai ga ga ?iku:ra (会いに行くのかしら)

5) 連体助詞に接する。

mi: ga nu tju: nu manri:n (見るた
めの人が多い)

figutu pume: ga nu tju: nu ?atji-
majun (仕事をさがすための人が集まる)

3, 5 tu (と)

動作・作用の相手・共同者および比較の対象
などを表わす。

【うける形式】

1) 体言をうける。

?uja tu mandzi ?ikun (親と一緒に行
く)

muka:fi tu tfigajun (昔と違う)

2) ある種の形容詞語幹のくり返しをうける。

puruburu: tu sun (古々とする。人が居
なく寒々とした様)

takadaka: tu mutfagijun (高々と持ち上
げる。

3) 準体助詞をうける。

ku: fi tu mandzi ?ikun (来ると同時
に行く)

nu: gara tu mandzi:n (なにかと混ぜる)

4) 並列助詞をうける。

?uja: tu fidga tu tu ?ikun (親と
兄とと行く)

kwa: nuja ma:ga nuja tu ?o:jun
(子やら孫やらと喧嘩する)

?umu: ka re:kuni ka tu he:jun
(芋か大根かと交換する)

kumi: jara mugi: jara tu he:jun
(米やら麦やらと換える)

mugi: tuka ?awa: tuka mandzijun
(米とか粟とかと混ぜる)

5) 副助詞をうける

summe: bake: tu ?afibun (祖父ばかり
と遊ぶ)

summe: mari tu ?o:jun (祖父までと
喧嘩する)

fidga niga: tu ?idge:n jo: (兄など
と行ったにちがいないよ)

wubama: nre tu ?afibu sa (叔母など
と遊ぶ)

?an kure: tu ja kurabira ra n
(あのぐらいとは比べられない)

?an ?atai tu ja nara n (あの程度

とはつきあえない)

?ikuʔʃi: na: tu ?a:ju gaja: (何歳ずつとあうかしら)

?uppi ntʃa: tu ja he:ra n (これぼちとは換えない)

tʃun (さえ) jati (でも) はうけえない。

【接する形式】

1) 格助詞 hara (から), jo:kan (より), ʃi (で) に接する。

kwa: tu hara ʔadʒimajun (子供とからはじまる)

tʃo:re: tu jo:kan maʃʃen (兄弟とよりよい)

?un ʃigu:tu ja muʔu tu ʃi ʔadʒi-mitan (この仕事は婿とではじめた)

2) 副助詞に接する。

ma:ga tu bake: ?aʃibun (孫とばかり遊ぶ)

tʃu: tu mari: ?o:jun (人とまで喧嘩する)

rufi tu niga: ru wuin jo: (友達など居るに違いない)

midʒi tu nre: mandʒitara ja nara n (水などと混ぜたらいけない)

ʔuru: tu kure: he:jun (畑となど換える)

mi:tʃi tu na: he:jun (三つとずつ換える)

?ari: tu tʃun ?ika n (あれとさえ行かない)

?ari: tu jatin ?ika n (あれとでも行かない)

3) 係助詞に接する

tʃu: tu ja ?ika n (人とは行かない)

?uja tu n ?ika n (親とも行かない)

ʃidʒa tu run wui ne: ʃimu: sa (兄とでもいとよいよ)

?uja tu ru ?iku:ru (親と行くのだ)

?uja tu ga ?iku:ra (親と行くのかしら)
4) 連体助詞に接する。

?uja tu nu naha (親との仲)

?uttu tu nu ʃigu:tu (弟との仕事)

3, 6 ʔgati (へ), tʃi (へ)

動作・作用の方向を表わす。方向とともに帰着点を表わすこともある。ʔgati と tʃi はほぼ同じように用いられる。

【うける形式】

1) 体言をうける。

nagu ngati ?ikun (名護へ行く)

ja: ʔgati ʃikun (家へ着く)

midʒi ʔgati nain (水になる。変化の結果)

?uja ʔgati ?jun (親にいう)

2) 準体助詞をうける。

ʒikjai ʃi ʔgati jutikun (光るのへ寄ってくる)

jaʃʃe: ʃi ʔgati ?atʃimajun (安いのへ集まる)

ra: gara ʔgati ?ike: (どこかへ行け)

3) 並列助詞をうける。

?umi tu ʔaru tu ʔgati ?ikun (海と畑とへ行く)

?ari nuja ʔuri nuja ʔgati wata-sun (あれやらこれやらへ渡す)

tugu:tʃi ka nagu ka ʔgati ?idʒan (渡久地か名護かへ行った)

?uja jara tʃo:re: jara ʔgati ʔa-gun (親やら兄弟やらへ配る)

tugu:tʃi tʃka nagu tʃka ʔgati

?idʒan (渡久地とか名護とかへ行った)

4) 副助詞をうける。

?ja: bake: ʔgati ?jun (君ばかりへ言う)

tudʒi mari: ʔgati kʏsamikun (妻までへ怒る)

ʔaru niga: ʔgati ?idʒe: sa (畑などへ行ったにちがいない)

?umi kure: ʔgati ga ?idʒa:ra (海あたりへ行ったのかしら)

?an ?atai ʔgati ja nai ju:sa n (あのぐらいにはなれない)

ta:tʃi na: ʔgati wakire: (二つずつへ分けなさい)

?uppi ntʃa: ʔgati natan (これっぽちになった)

tʃun (さえ) jatin (でも) はうけえない。

【接する形式】

1) 並列助詞に接する。

nagu ʔgati tu naʔa ʔgati nu mun (名護へと那覇へのもの)

?ari ʔgati nuja ʔuri ʔgati nuja nu mun (あれへやらこれへやらのもの)

tugutʃi ʔgati ka nugu ʔgati ?idʒan (渡久地へか名護へ行った)

kwa: ʔgati jara ma:ga ʔgati jara nu mun (子供へやら孫へやらのもの)

ʃidʒa ʔgati tyka ?uttu ʔgati tyka nu mun (兄へとか弟へとかのもの)

2) 格助詞 hara (から), jo:kan (より), ri (と) に接する。

buppa: ʔgati hara ?usagire: (おばあさんへからあげなさい)

tugutʃi ʔgati jo:kan nagu tʃi ?ike: (渡久地へより名護へ行きなさい)

nagu ʔgti ri ?jun (名護へという)

3) 副助詞に接する。

?umi ʔgati bake: ?ikun (海へばかり行く)

?umi ʔgati mari: ?ikun (海へまで行く)

?umi ʔgati niga: ja ?ika n (海へなどは行かない)

?umi ʔgati nre: ?idʒa:ra ja na-ra n (海へなど行ってはいけない)

?umi ʔgati kure: ?idʒe: sa (海へなど行ったにちがいないよ)

?uma ʔgati ?atai ja ?iki ju:sun (あそこへぐらいは行ける)

ta:tʃi ʔgati na: wakire: (二つずつへ分けなさい)

tunai ʔgati tʃun ?ika n (隣へさえ行かない)

ra: ʔgati jatin ?ikun (どこへでも行く)

4) 係助詞へ接する。

tʃu: n ja: ʔgati ja ?aka n (人の家へは行かない)

ra: ʔgati n ?ika n (どこへも行かない)

?ama ʔgati run ?iki ne: nara n (あそこへでも行ったらいけない)

tunai ʔgati ru ?iku:ru (隣へ行くのだ)

tunai ʔgati ga ?iku:ra (隣へ行くのかしら)

5) 連体助詞に接する。

tʃu: ʔgati nu mun (人へのもの)

naʔa ʔgati nu mitʃi (那覇への道)

3, 7 hara (から)

動作・作用の出発点を表わすのが本質である。
うける語やかかかると語によっては、経由点、方法、材料、物事の順序、範囲、原因、理由などを表わす場合もある。

【うける形式】

1) 体言をうける。

naɸa hara ku:n (那覇から来る。出発点)
juru hara ɸadʒimijun (夜からはじめる。出発点)

tugutʃi hara nagu ɸgati ʔikun (渡久地から名護へ行く。経由点)

ɸuni hara ʔikun (舟から行く。方法)
saki ja kumi hara sukojun (酒は米から作る。材料)

ʔja: hara ʔike: (君から行きなさい。順序)

tugutʃi hara nagu mari: ʔakkun (渡久地から名護まで歩く。範囲)

ʔiçi nu kytu hara ʔo: jun (少しのことから喧嘩する。原因)

2) 活用語の連用形をうける。

ʔiki hara wassatan (行きから悪かった)
wakaʃe: hara kawatutan (若い頃から変わっていた)

3) 準体助詞をうける。

haku: ʃi hara mutʃiko: (書くのから持ってこい)

tʃu: ʃe: ʃi hara ʃikare: (強いのから使いなさい)

ra: gara hara ku:n (どこから来る)

4) 並列助詞をうける。

ti: tu ɸisa tu hara ʔarajun (手と足とから洗う)

ʔikun nuja ʔika n nuja hara ɸa-

ɸimajun (行くのや行かないのやからはじまる)

ʔja: ka wan ka hara ʔika n ne: nara n (君か私かから行かないといけない)

mi: jara ɸana jara hara jari

ku:n (目やら鼻やらから痛んでくる)

tui tuka ʔaɸira: tuka hara ʃika-najun (鶏とか家鴨とかから飼う)

5) 格助詞をうける。

ʔari ga hara ʔi: dʒasun (彼がから言い出す)

tʃu: nu hara watajun (人がから渡る)

kwa: ne: hara ka: sun (子供にから食べさせる)

tui ga hara ʔikun (取りにから行く)

tudʒi tu hara ʔo: jun (妻とから喧嘩する)

ɸaru ɸgati hara ʔikun (畑へから行く)

mugi: ʃi hara suko: (麦でから作れ)

warabi ne: ti hara kawatutan (子供の頃から変わっていた)

ʔikun ri hara ʔi: dʒasun (行くとから言い出す)

6) 副助詞をうける。

jamatu bake: hara ku:n (大和ばかりから来る)

kwa: mari: hara ʔja: rin (子供からまで言われる)

tʃu: niga: hara ga ʔjattara (人などから言われたのかしら)

ɸituti nre: hara mo: ʃe: (蘇鉄などから燃やせ)

ʔan kure: hara ja ma: gi: ro: (あのぐらいからは大物だぞ)

ʔan ʔatai hara ja nain (あのぐらい

からはできる)

ti:tʃi na: hara ɸage: (一つずつから配れ)

ʔuppi ntʃa: hara ʃikanajun (これぼちちから育てる)

tʃun (さえ) jatin (でも) はうけえない。

7) 接続助詞の一部をうける。

haki: ba hara ja juma n ne:
nara n (書けばからは読まなければならない)

haki ne: hara ja tʃa:n nara n
(書けばからは、どうしようもない)

haki gafina: hara wakajun (書きながらからわかる)

【接する形式】

1) 並列助詞に接する。

nagu hara tu naɸa hara tu nu
mun je: sa (名護からと那覇からとのものだ)

ʔari hara nuja ɸuri hara nuja
tʃassa:n ʔatʃimajun (あれからやらこれからやらたくさん集る)

he: hara ka ʔaga:ri hara ɸutʃi-
ku:n (南からか東から吹いてくる)

me: hara jara ɸuʃi hara jara
ʔufʃikurusun (前からやら後からやら押しつける)

ʔui hara tuka ɸitʃa hara tuka
ʔatʃimatʃikun (上からとか下からとか集まってくる)

2) 格助詞に接する。

ʃidʒa hara ga waffe: sa (兄からが悪い)

wata hara nu jamiɸadʒimain (腹から痛みはじめる)

madʒi tudʒi hara ne: ʔje: (まず、妻からに言いなさい)

tudʒi hara tu ʔo: jun (妻からと喧嘩する)

ʃidʒa hara ɸgati mutʃi ʔike: (兄からへ持っていけ)

tugutʃi hara jo:kan tu:ʃen (渡久地からより遠い)

ʔja: hara ri ʔjun (君からという)

3) 副助詞に接する。

nifi hara bake: ɸukun (北からばかり吹く)

jamatu hara mari: ku:n (本土からまで来る)

minna hara niga: ku:n jo: (水納島からなど来る)

ʔi: dʒima hara nre: ke: sa n ni
(伊江島からなど来るはずだよ)

ɸaru hara kure: ke: tikun (畑からなど帰って来る)

ʔuma hara ʔatai ja nai sa (ここからぐらいはできる)

tu: hara na: ja ʔuɸuttʃu ro: (十歳からずつは大人だぞ)

juru hara tʃun ɸima ne:n (夜からさえ暇がない)

piru hara jatin nai sa (昼からでもできる)

4) 係助詞に接する。

juru hara ja ka: n (夜からは来ない)

juru hara n ku:n (夜からも来る)

juru hara run ki: ne: nara n
(夜からでも来るといけない)

juru hara ru ku:ru (夜から来るのだ)

juru hara ga ku:ra (夜から来るのか)

しら)

5) 連体助詞に接する。

juru hara nu figu:tu (夜からの仕事)
nagu hara nu mun (名護からのもの)

3, 8 jo:kan (より)

比較の基準を示す。

【うける形式】

1) 体言をうける。

jama jo:kan takafen (山より高い)
?umi jo:kan ?ukafen (海より深い)

2) 活用語の連用形をうける。

?iki jo:kan ?ara:fen (行きより荒い)
takaku jo:kan ?ikuku mafi (高くより
低くがよい)

3) 準体助詞をうける。

naku: si jo:kan warai si mafi (泣く
のより笑うのがよい)

ta: gara jo:kan mafi (誰かよりよい)

4) 並列助詞をうける。

?ja: tu wan tu jo:kan ?ari ru-
ntfi: ja mafi (君と私とよりあれ一人は
よい)

mugi: ka ?awa: ka jo:kan wugi:
?ui si ja mafi (麦か粟かより砂糖きび
を植えるのはよい)

ma: jara ?ufi jara jo:kan ?wa:
?ikanai si ja mafi (馬やら牛やらより
豚を飼うのがよい)

?atfja: tuka ?asa:ti tuka jo:kan
ku: mafi (明日とか明後日とかより今日が
よい)

5) 格助詞をうける。

?ari: ga jo:kan ?ja: ga ?iku: si
mafi (あれがより君が行くのがよい)

tui nu jo:kan pi:dga: nu ju:
ke:n (鳥がより山羊がよく食べる)

fidga ne: jo:kan ?uttu ne: ?ju:
si mafi (兄により弟に言うのがよい)

mi: ga jo:kan ke: ga ?iku: si
mafi (見により食べに行くのがよい)

?uja tu jo:kan rufi tu ?iku: si
mafi (親とより友だちと行くのがよい)

fidga ?gati jo:kan ?uttu ?gati
?ju: si mafi (兄へより弟へ言うのがよい)

tugu:tfi hara jo:kan nagu hara ke:
simu: mu (渡久地からより名護から来れば
よいのに)

ki: si jo:kan raki: si sukore:
(木でより竹で作れ)

tugutfi ne:ti jo:kan nagu ne:ti
ja jaffen (渡久地でより名護では安い)

6) 副助詞をうける。

mi: bake: jo:kan su: si ja mafi
(見るばかりよりするのはよい)

nagu mari: jo:kan ja tu:fen (名護
までより遠い)

jikigantfa: niga: jo:kan mafi (男た
ちなどよりよい)

jinaguntfa: nre: jo:kan mafi ro:
(女たちなどよりいいぞ)

?ifi kure: jo:kan tfu:fen (石などよ
り強い)

?an ?atai jo:kan takafen (あのぐら
いより高い)

ta:tfi na: jo:kan ki:ju:sa n (二つ
ずつよりあげることができない)

tfun (さえ) jatin (でも) はうけえない。

7) 接続助詞 gafina: をうける。

?iki gafina: jo:kan ja ki: gafi-

na: jure: (行きながらよりは来ながら寄れ)

【接する形式】

1) 並列助詞 ka (か) に接する。

?uja jo:kan ka tfo:re: jo:kan
hana:sasun (親よりか兄弟より大事にする)

2) 格助詞 ne:ti (で) に接する。

φaru ne:ti jo:kan ja: ne:ti mafi
(畑でより家でよい)

nagu ne:ti jo:kan takafen (名護で
より高い)

3) 副助詞 nre:(re:) に接する。

nagu jo:kan re: takafen (名護よりな
んぞ高い)

?umu jo:kan re: jassen (芋よりなん
ぞ安い)

4) 係助詞に接する。

?ari jo:kan ja tJurafe:n (あれより
は美しい)

?ari jo:kan ru tJurafe:ru (あれより
美しいのだ)

?ari jo:kan ga tJurafe:ra (あれより
美しいのかしら)

3. 9 si (で), sai (で)

方法, 材料を表わす。si と sai はほぼ同じ
ように用いられる。

【うける形式】

1) 体言をうける。

ti: si sukojun (手で作る)

ki: si sukojun (木で作る)

φuni si ?ikun (舟で行く)

2) 準体助詞をうける。

ho:tiku: si sai sukojun (買ってくる
ので作る)

nu: gara si sukore: (なにかで作るな

さい)

3) 並列助詞をうける。

kwai tu hama: tu si kijun (鋏と
鎌とで切る)

kwai nuja hama nuja si kijun (鋏
やら鎌やらで切る)

ki: ka raki: ka si sukojun (木か
竹かで作る)

?ifi jara bo: jara si kurusun
(石やら棒やらで殺す)

bafa tyka kuru:ma tyka si haja-
sun (馬車とか車とかで運ぶ)

4) 副助詞をうける。

habi bake: si sukojun (紙ばかりで作
る)

bui mari: si tatakun (鞭まででたたく)

?awa niga: si sukojun jo:(粟などで
作るよ)

çisa nre: si kuramijun (足などで踏
む)

?an kure: si ja nu:n nara n (あ
のぐらいではなにもできない)

?an ?atai si ja nara n (あのぐら
いではできない)

tai na: si kumbun (二人ずつでしぼる)

?uppi ntja: si ja nara n (これぼ
ちちではできない)

tfun (さえ) jatin (でも) はうけえない。

【接する形式】

1) 並列助詞 tu (と), ka (か), tuka
(とか) に接する。

kumi: si tu mugu: si sukojun (米
でと麦で作る)

kumi: si ka mugu: si sukojun (米
でか麦で作る)

ti: si tu:ka ɕi:sa: si sagujun (手
でとか足でさぐる)

2) 格助詞 hara (から), jo:kan(より),
ri (と)に接する。

kwai si hara hadgijun (鋤でから耕や
す)

kwai si jo:kan hama: si kire:
(鋤でより鎌で切れ)

ti: si ri ?ju:tan (手でと言っていた)

3) 副助詞に接する。

hani: si bake: sukojun (鉄でばかり作
る)

ka:ra si mari: sukojun (瓦でまで作
る)

ɕuni si niga: ?idɕe:n te: (舟でな
ど行ったにちがいない)

to:gumi si nre: sukojun jo: (黍で
など作るはずだよ)

ntɕa: si kure: sukore: (土でなど作り
なさい)

ti: si ?atai ja nara n (手でぐら
いではできない)

haja: si tɕun ɕu:ka n (茅でさえ葺か
ない)

haja: si jatin ɕuke: san (茅でも
葺けばよいのに)

4) 係助詞に接する。

kuru:ma si ja ?ika n (車ではいかな
い)

kuru:ma si n ?ikun (車でも行く)

kuru:ma si run ?iki ne: he:ʃen
(車ででも行くと早い)

kuru:ma si ru ?iku:ru (車で行くのだ)

kuru:ma si ga ?iku:ra (車で行くのか
しら)

3, 10 ne:ti (で)

動作の行なわれる場所・時を表わす。

【うける形式】

1) 体言をうける。

ʃima ne:ti ma:rin (島で生れる)

?ama ne:ti juɕumun (あそこで休む)

ke: ne:ti jure: (帰るときによりな
さい)

2) 活用語の連用形をうける。

?iki ne:ti muttɕi ko: (行くときに持
ってこい)

wakafe: ne:ti ?idɕan (若いときに行っ
た)

haka si ne:ti ?je: (書かせるときに
言いなさい)

3) 準体助詞をうける。

ra: gara ne:ti ?ui sa (どこかで売
るよ)

ra: gara ne:ti haku:sa (どこかで書
くよ)

4) 並列助詞をうける。

?ui tu ɕitɕa tu ne:ti ?aʃibun (上
と下とで遊ぶ)

?ui ka ɕitɕa ka ne:ti ?aʃibun (上
か下かで遊ぶ)

me: jara ɕu:ʃi jara ne:ti ?aʃibun
(前やら後やらで遊ぶ)

nagu tu:ka naɕa tu:ka ne:ti ho:jun
(名護とか那覇とかで買う)

5) 副助詞をうける。

?uri: ja tugutɕi bake: ne:ti ?ujun
(これは渡久地ばかりで売る)

tugutɕi mari: ne:ti ?ututɕe: sa (渡
久地までの間で落としたにちがいない)

ɕaru niga: ne:ti ?a:te:n jo: (畑

などで会ったにちがいないよ)

φama nre: ne:ti ?afibun (浜などで遊ぶ)

matji:ja kure: ne:ti ho:jun (店などで買う)

?un ?atai ne:ti ?idgan (この年頃で行った)

ja:tji na: ne:ti ?agai sa (八歳ずつで入学する)

6) 接続助詞 *ga:fina:* (ながら) をうける。

?iki *ga:fina:* ne:ti ?itfukun (行きながらで言うておく)

【接する形式】

1) 並列助詞に接する。

tugutji: ne:ti tu nagu ne:ti mitjan (渡久地でと名護で見た)

?ama ne:ti nuja φuma ne:ti nuja mugejun (あそこでやらここでやらさわぐ)

me: ne:ti ka φufi ne:ti mugejun (前でか後でさわぐ)

φuru ne:ti jara ja: ne:ti jara saki numikurusun (畑でやら家でやら酒を飲みつゞける)

φaru ne:ti tuka ja: ne:ti saki numun (畑でとか家で酒を飲む)

2) 格助詞 *hara* (から), *jo:kan* (より),

ri (と) に接する。

φaru ne:ti. *hara jamutan* (畑でから痛かった)

ja: ne:ti *jo:kan jamun* (家でより痛む)

ja: ne:ti *ri ?jun* (家でという)

3) 副助詞に接する。

fima ne:ti bake: kurasun (島でばかり暮す)

φaru ne:ti *mari: jumun* (畑でまで読む)

he:kata ne:ti niga: φatarakun jo: (南部方面で働いているよ)

?umi ne:ti *nre: ?afirara ja naran* (海などで遊んではいけない)

tunai ne:ti kure: ?afibun (隣などで遊ぶ)

tunai ne:ti ?atai ja ?afibe: simu figa (隣でぐらい遊べばよいのだが)

tunai ne:ti tjun ?afiba n (隣でさえ遊ばない)

tunai ne:ti jatin ?afibun (隣ででも遊ぶ)

4) 係助詞に接する。

ja: ne:ti *ja φataraka n* (家では働かない)

ja: ne:ti *n φataraka n* (家でも働かない)

ja: ne:ti *run φataraki ne: simu figa* (家ででも働けばよいのだが)

ja: ne:ti *ru φataraku:ru* (家で働くのだ)

ja: ne:ti *ga φataraku:ra* (家で働くのかしら)

5) 連体助詞に接する。

naφa ne:ti nu kutu: (那覇でのこと)

ja: ne:ti *nu figu:tu* (家での仕事)

3, 11 *ri* (と)

動作・作用の内容を表わす。

【うける形式】

種々の表現内容をうける。

fidza ri ?jun (兄だという)

jonna: ri ?jun (ゆっくりだという)

hakun ri ?jun (書くという)
 takafen ri ?jun (高いという)
 haka sun ri ?jun (書かせるという)
 haki bufen ri ?jun (書きたいという)
 tugutʃi ʃgati ri ?jun (渡久地へとい
 う)

【接する形式】

1) 並列助詞に接する。

hakun ri nuja haka n ri nuja
 ?jun (書くとやら書かないとやらい
 う)
 ?ikun ri ka ?ika sun ri ?jun
 jo:(行くとか行かせるというよ)
 ?ikun ri jara ?ika n ri jara
 ?jun (行くとやら行かないとやらい
 う)
 wakajun ri tuka wakara n ri
 tuka ?jun (わかるとかわからないと
 かい
 う)

2) 格助詞 hara (から), jo:kan (より) に接する。

ʃatarakun ri hara ?jun (働くとから
 い
 う)

mattun ri jo:kan ?ja: ra n (待つ
 とよりいえない)

3) 副助詞に接する。

?itʃunafen ri bake: ?jun (忙しいとば
 かりい
 う)

ʃago:ʃen ri mari: ?jun (きたないと
 ま
 だいう)

?itʃunafen ri niga: ?jun jo: (忙し
 いと
 などいうよ)

?ikun ri nre: ?i: ne: nara n (行
 く
 となどい
 うといけない)

mintʃafen ri kure: ?jatte:n jo:
 (さわがしいと
 など言
 われたに
 ちが
 いな
 いよ)

misijun ri ?atai ja ?je: san ni

(見せるとぐらいはいうでしょう)

?ammaʃen ri tʃun ?ja n (体の具合が
 悪いと
 さえい
 わない)

nama ?itʃunafen ri jatin ?je: (今
 忙し
 いと
 ても
 いい
 な
 さい)

4) 係助詞に接する。

ku:n ri ja ?ja n (来るとはいわ
 な
 い)

ku:n ri n ?jun (来るともい
 う)

ku:n ri run ?i: ne: nara n (来
 る
 と
 ても
 い
 う
 と
 い
 け
 な
 い)

ku:n ri ru ?ju:ru (来るとい
 う
 の
 だ)

ku:n ri ga ?ju:ra (来るとい
 う
 の
 か
 し
 ら)

4. 副助詞

上接形式にある意味を添え、用言の意義を修飾するはたらきがある。

4. 1 bake:(ばかり)

事柄の範囲を限っていうのに用いる。そのため強調の意があらわれることもある。また、数量を表わす語につき、おおよその分量、程度を表わす。

【うける形式】

1) 体言をうける。

?ami bake: ʃuin (雨ばかり降る)

saki bake: numun (酒ばかり飲む)

ta:tʃi bake: mutʃiko: (二つばかり持つてこい)

2) 活用語の連用形、接続形をうける。

jumi bake: sun (読みばかりする)

juri bake: wuin (読んでばかりいる)

takaku bake: nain (高くばかりなる)

takasati bake: ?ati n nu: n na-

ra n (高くてばかりあってもなんにもならない)
 ɸataraka si bake: sun (働かせばかり
 する)

ɸataraka tji bake: wuin (働かせてば
 かりいる)

3) 準体助詞をうける。

ʃikai si bake: muttʃiʔike: (使うもの
 ばかり持っていけ)

nu: gara bake: ʔain (つまらないもの
 ばかりある)

4) 並列助詞をうける。

ʃidga tu ʔuttu bake: wuin (兄と弟
 ばかりいる)

ʔai nuja ɸui nuja bake: ʔjun (あ
 ゃやらこうやらばかりいう)

ma: ka ʔufi ka bake: ʃikanajun
 (馬か牛かばかり飼う)

ʔai jara ɸui jara bake: ʔjun (あ
 あやらこうやらばかりいう)

ʔamma: tuka dʒitʃa: tuka bake:
 tarugakijun (母とか父とかばかり頼りにす
 る)

5) 格助詞をうける。

ʔari: ga bake: mi:n (あれがばかり見
 る)

maja: nu bake: ke:n (猫がばかり食う)

nagu ne: bake: wuin (名護にばかりい
 る)

tui ga bake: ʔikun (取りにばかり行
 く)

ʔuja tu bake: ʔikun (親とばかり行く)

ʔuja ɸgati bake: ʔjun (親へばかりい
 う)

ʔuja hara bake: tuin (親からばかり
 取る)

ti: ʃi bake: sukojun (手でばかり作
 る)

tunai ne:ti bake: ʔafibun (隣でばか
 り遊ぶ)

ʔafibun ri bake: ʔjun (遊ぶとばかり
 言う)

6) 副助詞をうける。

saki niga: bake: nurara ja nara
 n (酒などばかり飲んではいけない)

ɸisa kure: bake: ʔarajun (足などば
 かり洗う)

ʔan ʔatai bake: ja nai su:ru (あ
 のぐらゐばかりはできるでしょう)

ti:tʃi na: bake: ki:jun (一つずつばか
 りあげる)

7) 接続助詞 gafina: (ながら)をうける。

ʔiki gafina: bake: juin (行きながら
 ばかりよる)

ʔakki gafina: bake: ɸanafii: sun
 (歩きながらばかり話す)

【接する形式】

1) 並列助詞に接する。

ti: bake: tu ɸisa bake: ʔarajun
 (手ばかりと足ばかり洗う)

ti: bake: ka ɸisa bake: ʔarajun
 (手ばかりか足ばかり洗う)

ʔawa bake: tuka muʒi: bake: ʔu-
 ijun (粟ばかりとか麦ばかりを植える)

2) 格助詞に接する。

ʔari bake: ga sun sun (あればかり
 が損する)

garasa: bake: nu ke:n (鳥ばかりが食
 う)

wan bake: ne: ʔadʒikijun (私ばかり
 に預ける)

mi: bake: ga ?ikun (見ばかりに行く)
 ?uttu bake: tu ?asibun (弟ばかりと遊ぶ)
 kwa: bake: ?gati ?jun (子供ばかりへいう)
 nagu bake: hara ku:n (名護ばかりから来る)
 ?ui bake: jo:kan tai ja mafi (一人ばかりより二人はよい)
 ntfa bake: si sukojun (土ばかりで作る)
 ja: bake: ne:ti figu:tu sun (家ばかりで仕事する)
 ?ja: bake: ri ?jun (君ばかりという)
 3) 副助詞に接する。
 kusa bake: niga: ru tuiru (草ばかりなど取るのだ)
 kusa bake: nre: hati nu: su: ga (草ばかりなど刈ってどうするのだ)
 ?fira bake: kure: ?arajun (顔ばかりなど洗う)
 mi:tfi bake: na: wakijun (三つばかりずつ分ける)
 mi: bake: tfun sa n (見ばかりもしない)
 mi: bake: jatin sun (見ばかりでもする)
 4) 係助詞に接する。
 midzi bake: ja numun (水ばかりは飲む)
 midzi bake: n numa ra n (水ばかりも飲めない)
 midzi bake: run numi ne: wata: ko:sun (水ばかりなんぞ飲むと腹をこわす)
 midzi bake: ru numu:ru (水ばかりを

飲むのだ)

midzi bake: ga numu:ra (水ばかり飲むのかしら)

5) 連体助詞に接する。

?ami bake: nu pi: (雨ばかりの日)

?ifi bake: nu sima: (石ばかりの島)

4, 2 mari:(まで); gari:(まで)

動作・作用や状態の及ぶ限界点を示す。mari: と gari: はほとんど同じように用いられる。

【うける形式】

1) 体言をうける。

jamatu mari: ?ikun (本土まで行く)

φaru mari: kika ri:n (畑まで聞こえる)

hadzi mari: φukun (風まで吹く)

2) 動詞および動詞型助動詞の連用形、連体形、接続形をうける。形容詞および形容詞型助動詞では、その連用形をうける。

haki mari: mattfuku sa (書くまでしておくよ)

haku mari: mattfukun na (書くまで待っておくか)

hatji mari tura sun (書いてまであげる)

takaku mari: nati ho:i ju:sa n (高くまでなって買うことができない)

haka fi mari: mattfukun (書かせるまで待っておく)

haka su mari: mattfukun (書かせるまで待っておく)

haka tfi mari: mifi:n (書かせてまで見せる)

numi buku mari: nain (飲みたくまでなる)

3) 準体助詞をうける。

?iku: si mari: tumi:n (行くのまで止める)

nu: gara mari: ?idgasu ban (なにかまで出すよ)

4) 並列助詞をうける。

ma: tu ?ufi tu mari: nufijun (馬と牛とまで乗せる)

ti: nuja çisa nuja mari: kumbun (手やら足やらまでしぼる)

tugutji ka nagu ka mari: ?ikun (渡久地か名護かまで行く)

subui jara kiðkwan jara mari: ?uijun (冬瓜やかぼちゃやらまで植える)

re:kuni tyka ?akare:kuni mari: ?uijun (大根とか人参とかまで植える)

5) 格助詞をうける。

?ari: ga mari: φατarakun (あれがまで働く)

hadzi nu mari: φukun (風がまで吹く)

?uja ne: mari: ?jun (親にまでいう)

?ui ga mari: ?ikun (売りにまで行く)

tfu: tu mari: ?ikun (人とまで行く)

?uja ðgati mari: kytfige:sun (親へまで口答える)

kwa: hara mari: tuin (子供からまで取る)

çisa si mari: kurami:n (足でまで踏む)

φaru ne:ti mari: ?o:jun (畑でまで喧嘩する)

?ujun ri mari: ?jun (売るとまでいう)

6) 副助詞をうける。

saki niga: mari: numatfara ja

nara n (酒などまで飲ましてはいけない)

tabaku nre: mari: φutfara ja nara n (煙草などまで吸ってはいけない)

çisa kure: mari: ?arajun (足などまで洗う)

?an ?atai mari: ja nain (あのぐらいいまではできる)

ta:tfi na: mari: ja simun (二つずつまではよい)

tfun (さえ) jatin (でも) はうけえない。

7) 接続助詞 ba (ば) gafina: (ながら) をうける。

hana:ðgi jumi: ba mari: re: gaja: (必ず読めばまでであろうか。必ず読まないといけないかしら)

?iki gafina: mari: mi:n (行きながらまで見る)

【接する形式】

1) 並列助詞に接する。

karina: mari: tu kodza mari: ja ra: nu tu:se: ga (嘉手納までとコザまでではどちらが遠いのか)

karina: mari: nuja kodza mari: nuja ritji ?ikun (嘉手納までやらコザまでやらと行って行く)

?ja: mari: ka wan mari: ja ?ika n ne: nara n (君までか私までは行かなければならない)

çitfidzu: mari: jara φατfidzu: mari: ?ikin ri ro: (70歳までやら80歳までやら生きるらしいよ)

φατfidzu: mari: tyka kundzu: mari: ?ikira ri: ne: maffe: figa (80歳までとか90歳まで生きられるといいのだが)

2) 格助詞に接する。

ʔja: mari: ga ʔika n tin ʃimu:
sa (君までが行かなくてもよい)

hadʒi mari: nu ɸuki ne: re:dʒi
su: sa (台風までが吹いたら大変なことになるよ)

midʒi mari: ne: kumajun (水までに困る)

mifi mari: ga ʔikun (見せまでに行く)

ʔuja mari: tu ʔo: jun (親までと喧嘩する)

ʔitʃikubi: mari: ɸgati ʔukujun (従兄弟たちまでへ送る)

jamatu mari: hara ku:n (本土までから来る)

kinnu: mari: jo:kan maffsen (昨日までよりよい)

ʃina mari: ʃi kubijun (綱まででしる)

juɸane: mari: ne:ti sa n ne:
nara n (夕方まででなければならぬ)

ʔja: mari: ri ʔjun (君までといていた)

3) 副助詞に接する。

tugutʃi mari: niga: ja ʔidʒika n
ne: nara n (渡久地までなどは行ってこないといけない)

nagu mari: nre: ʔidʒika: (名護までなど行ってこよう)

nagu mari: kure: ʔikun (名護までなど行く)

nagu mari: ʔatai ja ʔiki ju:sun
(名護までぐらいは行ける)

mi:ʃi mari: na: wakijun (三つまでずつ分ける)

nagu mari: ʃun ʔiki ju:sa n (名護までさえ行くことができない)

nagu mari: jatin ʔiki ju:sun
名護まででも行くことができる)

4) 係助詞に接する。

ʔuri mari: ja nara n (それまでではない)

ʔuri mari: n nain (それまでもできる)

ʔuri mari: run nai ne: ʃimun
(それまでなんぞできたらよい)

ʔuri mari: ru nairu (それまでしかできない)

ʔuri mari: ga naira (それまでしかできないのかしら)

5) 連体助詞に接する。

tugutʃi mari: nu mitʃi (渡久地までの道)

nagu mari: nu ʃu: (名護までの人)

4, 3 niga:(など, なんぞ)

事柄をそれだけに限定せず, 例示的に示す意を表わす。

【うける形式】

1) 体言をうける。

pirunimbi niga: ja sa n (昼寝などはしない)

saki niga: numun jo:(酒など飲むよ)

2) 動詞および動詞型助動詞の連用形, 接続形をうける。形容詞および形容詞型助動詞では, その連用形をうける。

haki niga: ʃiʃa:ra ja nara n (書きなどしたらいけない)

hatʃi niga: wuta:ra ja nara n (書きなどしていたらいけない)

takaku niga: nain jo: (高くなどなるでしょう)

haka fi niga: sun (書かせなどする)
 haka tji niga: wuin jo: (書かせてなど
 いるでしょう)

haki buku niga: nain (書きたくなど
 なる)

3) 準体助詞をうける。

jumu: fi niga: ?ain te: (読むもの
 などあるにちがいない)

ra: gara niga: ?idge: sa (どこか行
 ったにちがいない)

4) 並列助詞をうける。

ma: tu ?wa: tu niga: ?ikanajun
 (馬と豚となど飼う)

ma: nuja ?wa: nuja niga fi-
 kanajun (馬やら豚やらを飼う)

ma: ka ?wa: ka niga: ?ikanajun
 (馬か豚かなど飼う)

mami: jara ?o:fa jara niga: ?u-
 ijun (豆やら野菜やらなどを植える)

mami: tyka ?o:fa tyka niga: ?ui-
 jun (豆とか野菜とかなどを植える)

5) 格助詞をうける。

?ari: ga niga: ?ika n (あれがなど
 行かない)

?ami: nu niga: ?ui ne: nara n
 (雨がなど降るといけない)

gakko: ne: niga: wuin jo: (学校に
 などいるよ)

mi: ga niga: ?idge: sa (見になど
 行ったにちがいないよ)

?uja tu niga: ?o:tara ja nara n
 (親となど喧嘩したらいけない)

tju: ?gati niga: ?itjara ja nara
 n (人へなど言ったらいけない)

na?a hara niga: ku:n (那覇からなど

来る)

kumi: fi niga: sukojun jo: (米で
 など作るよ)

tunai ne:ti niga: ?afibun (隣でなど
 遊ぶ)

çitjimun ri niga: ?jun jo: (包むと
 など言うよ)

6) 副助詞をうける。

saki bake: niga: nurara ja nara
 n (酒ばかりなど飲んではいけない)

nakidjin mari: niga: ?idge:n jo:
 (今帰仁までなど行ったにちがいないよ)

midzi nre: niga: hakitara ja nara
 n (水などかけたらいけない)

katju: ?ju: kure: niga: ?are: sa
 nni (鏝あたりなどあるでしょう)

?anu ?atai niga: ja nain (あのぐら
 いなど是可以)

ta:tji na: niga: ki:re: (二つずつな
 どあげなさい)

tju (さえ), jatin (でも)はうけえない。

7) 接続助詞 ba (ば), ne: (と), tu (か
 ら, ので), gafina: (ながら)をうける。

haki: ba niga: ki:n jo: (書いたりな
 などするとあげるよ)

haki ne: niga: ?ussasun (書いたりな
 などすると喜ぶよ)

tji: nu takafe: tu niga: jara n
 gaja: (血が高いからではなかるうか)

haki gafina: niga: ?itje:n jo: (書
 さながらなど言ったにちがいないよ)

【接する形式】

1) 格助詞に接する。

tju: niga: ga ru ku:ru (人などが来
 るのだ)

tui niga: ga ru ke:ru (鳥なんか
食うのだ)

tunai niga: ne: wuin (隣などにいる)
mi: niga: ga ?idze: sa (見なんぞに
行ったにちがいない)

?uja niga: tu ?idze: sa (親なんぞと
行ったにちがいない)

φaru niga: φgati ?ika nta gaja:
(畑なんぞへ行かなかったかしら)

φuru niga: hara ke:ti kun jo:
(畑などから帰ってくるよ)

?ju: niga: jo:kan takafen (魚などよ
り高い)

wugi niga: fi sukujun jo: (砂糖き
びなどで作るよ)

φama niga ne:ti ?a:te: sa (浜など
で会ったにちがいない)

juφumun ri niga: ?itφa:ra ja na-
ra n (休むとなど言っではいけない)

2) 副助詞に接する。

wugi niga: bake: ?uiti n nu: n
nara n (砂糖きびばかり植えてもなにも
ならない)

?ari niga: mari: so:ti ?idgara
ja tatφi su: ga (あれなどまでつれてい
ったらどうするのか)

?ari niga: nre: so:ti φa:ra ja
nara n (あれなどまでつれてきたらいけ
ない)

?ari niga: kure: so:ti?ike: (あれな
んぞあたりつれていけ)

?ari niga: ?atai ja ?idgi:n simu:
sa (あれなんぞぐらいは行ってもいいよ)

ta:φi niga: na: ja ki:re: (二つず
つなどはあげなさい)

?uttu niga: φjun φikara n (弟などさ
え使わない)

?uttu niga: jatin φikajun (弟など
でも使う)

3) 係助詞に接する。

?o:ra niga: ja φikara n (畚などは使
わない)

?o:ra niga: n φikare: (畚なども使い
なさい)

?o:ra niga: run φikai me: he:φen
(畚などでも使うと早い)

?o:ra niga: ru φikairu (畚なんぞ使う
のだ)

?o:ra niga: ga φikaira (畚など使うの
かしら)

4) 連体助詞に接する。

ma: niga: nu ki: (馬などの毛)

?uφi niga: nu φinu: (牛などの角)

4, 4 nre: (なぞ, なんぞ, でも)

事柄をそれだけに限定せず, 例示的に示す意
を表わす。

【うける形式】

1) 体言をうける。

pirunimbi nre: fi: ne: φimu figa
(昼寝などするとよいのだが)

?uttu nre: jarafe: (弟など行かせなさい)

2) 動詞および動詞型助動詞の連用形, 接続形
をうける。形容詞および形容詞型助動詞では,
その連用形をうける。

haki nre: φitφara ja nara n (書き
などしたらいけない)

hatφi nre: wura n figa (書いてなど
いけないよ)

?atφiku nre: ne:n ne: φimu: sa

(暑くなどなければいいよ)

haka ſi nre: ʧitʃara ja nara n
(書かせなどしたらいけない)

haka tʃi nre: wura n ſiga (書かせてなどいないよ)

haki buku ne:n ne: ſimu: sa (書きたくなければいい)

3) 準体助詞をうける。

su: ſi nre: ʔare: sa n ni (することなどありはしないか。することなどあるでしょう)

nu: gara nre: ho:tiko: (なにかなど買ってきなさい)

4) 並列助詞をうける。

ſina tu bubu:rutunre: ʔai ne: ſi-mu sa (砂と砂利とでもあるといいよ)

ſina nuja bubu:ru nuja nre: ſi-kai sa (砂やら砂利やらなど使うよ)

ſina ka bubu:ru ka nre: ſikain jo: (砂か砂利かなど使うよ)

ſina jara bubu:ru jara nre: man-nri:n (砂やら砂利やら多い)

ſina tuka bubu:ru tuka nre: ſi-ka:ti sukojun (砂とか砂利とか使っている)

5) 格助詞をうける。

ʔari ga nre: dʒo:i ʔika n ſiga (あれがなど絶対にかないよ)

ʔami nu nre: ʃui ne: maſſe: ſiga (雨がなど降るといいのだが)

ʃaru ne: nre: waſſite: sa (畑になど忘れたにちがいない)

mi: ga nre: ʔidge: sa (見になど行ったにちがいない)

tʃu: tu nre: ʔo:tara ja nara n

(人となど喧嘩したらいけない)

matʃi ʊgati nre: ʔidʒa:ra ja nara n (町へなど行ってはいけない)

piruʔatu hara nre: ku:n jo: (昼後からでも来るよ)

ʔja: jo:kan re: tʃu:ʃen (君よりなど強い)

haja: ſi nre: sukojun te: (茅でなど作るはずだよ)

ha: ne:ti nre: ʔafirara ja nara n (池でなど遊んではいけない)

ʃaʔarakun ri nre: ʔi: ba ſimu: sa (働くなど言えばいいよ)

6) 副助詞をうける。

saki bake: nre: nuri nu: n sa n (酒ばかりなんぞ飲んでなにもしない)

naʃa mari: nre: ʔika nta gaja: (那覇までなど行かなかったかしら)

ʔimi niga: nre: mitʃara ja nara n (夢など見たらいけない)

taʃu kure: nre: ʔare: sa n ni (蛸ぐらいなどあるでしょう)

ʔan ʔatai nre: nain jo: (あのぐらいはできるよ)

ta:tʃi na: nre: muttʃi ko: (二つずつなど持ってこい)

ʔuppi: ntʃa: nre: nai na (これぼっちしかできないのか)

tʃun (さえ), jati (でも)はうけえない。

7) 接続助詞 gaſina: (ながら)をうける。

ʔiki gaſina: nre: juti tura ſe: (行きながらでもよってくれ)

【接する形式】

1) 副助詞に接する。

midgi nre: tfun numa sa n (水など
さえ飲まさない)

kusa nre: jatin hati ko: (草などで
も刈りてこい)

2) 係助詞に接する。

?uri nre: ja hatami: ju:sun (これ
などはかつぐことができる)

?uri nre: n hatami: ju:sa n (こ
れなどもかつぐできない)

?uri nre: run hatami: ju:fi ne:
tʃu:ba: je: sa (これなどでもかつぐこ
とができたらいしたものだ)

?uri nre: ru hatami: ju:suru (こ
れなどかつぐことができるのだ)

?uri nre: ga hatami: ju:sura (こ
れなどかつぐことができるのかしら)

4, 5 kure: (ぐらい, あたり, など)

ある箇所を例示的に示したり, 動作や状態の
程度を表わす。

【うける形式】

1) 体言をうける。

naga:ni kure: hake: (背中あたり搔き
なさい)

çisa kure: ?arare: (足など洗いなさい)

?an kure: ja nain (あのぐらいはでき
る)

2) 動詞および動詞型助動詞の連用形, 接続形
をうける。形容詞および形容詞型助動詞では,
その連用形をうける。

çataraki kure: si: ne: simu siga
(働きなどするとよいのだが)

çataratʃi kure: tura si ba simu
siga (働いてぐらいやってくればよいのだ

が)

çataraka si kure: sa n ne: nara
n (働かせぐらいしないといけない)

çataraka tʃi kure: wuin jo: (働かせ
てなどいるよ)

?atʃiku kure: nain te: (暑くなどなる
でしょう)

?iki buku kure: nain jo: (行きたく
などなるよ)

3) 準体助詞をうける。

haku: si kure: muttʃiko: (書くもの
など持ってこい)

nu: gara kure ho:re: (なにかなど買
いなさい)

4) 並列助詞をうける。

?ari: tu ?uri: tu kure: muttʃi-
?ikun (あれとこれとなど持っていく)

?ufi nuja ma: nuja kure: manri:n
(牛やら馬やらたくさんいる)

?wa: ka pi:dʒa: ka kure: si kana-
jun (豚か山羊かなど飼う)

kwa: jara ma:ga jara kure: ma-
nri:n (子供やら孫やらなどたくさんいる)

nagu tyka naça tyka kure: ?ikun
(名護とか那覇とかなど行く)

5) 格助詞をうける。

?ari ga kure: ja nain (あれがぐら
いはできる)

?entʃu nu kure: ke:n (ねずみがなど
食う)

jama ne: kure: wuin (山になどい
る)

haki ga kure: ?ikun (書きになど行
く)

?uja tu kure: ?ikun (親とあたり行く)

naφa 0gati kure: ?ikun (那覇へなど行く)

jamatu hara kure: ku:n (本土あたりから来る)

raki: ?i kure: sukojun (竹などで作る)

φama ne:ti kure: ?afibun (浜で遊ぶ)

tudgumin ri kure: ?ja n ti:(仕上げるとなど言わなかったか)

6) 副助詞をうける。

wugi bake: kure: ?uijun (砂糖きびばかりなど植える)

wugi mari: kure: ?uijun (砂糖きびまでなど植える)

wata niga: kure: jamun jo: (腹など痛むはずだよ)

?an ?atai kure: nain (あのぐらいなどではできる)

mi:tji na: kure: ki:re: (三つずつぐらいあげなさい)

tjun (さえ), jatin (でも)はうけえない。

7) 接続助詞 gafina:(ながら)をうける。

?iki gafina: kure: mawatiko: (行きながらでもまわってこい)

numi gafina: kure: φana?i: ?e:(飲みながらでも話さない)

【接する形式】

1) 並列助詞に接する。

ti: kure: tu ?isa kure: ?arajun (手などと足など洗う)

ti: kure: nuja ?isa kure: nuja ?arajun (手などやら足などやら洗う)

ti kure: ka ?isa kure: ?arajun

(手などか足など洗う)

ti: kure: jara ?isa kure: jara ?arajun (手などやら足などやら洗う)

ti: kure: tu?ka ?isa kure ?arajun (手などとか足など洗う)

2) 格助詞に接する。

d?inan kure: ga ?ikun (次男などが行く)

maja: kure: nu ?akkun (猫などが歩く)

naφa kure: ne: wuin (那覇あたりにいる)

mi: kure: ga ?idge: sa (見などに行ったにちがいない)

tunai kure: tu ?afibun (隣などと遊ぶ)

φaru kure: 0gati ?ikun (畑などへ行く)

φaru kure: hara ke:tikun (畑あたりから帰ってくる)

naφa kure: jo:kan ?i:fen (那覇などより寒い)

matji kure: ?i sukojun (松などで作る)

?ama kure: ne:ti ?afibun (あそこあたりで遊ぶ)

tudgumin ri kure: ?jun jo: (仕上げるとなど言うよ)

3) 副助詞に接する。

midzi kure: bake: numun (水などばかり飲む)

saki kure: mari: numun (酒などまで飲む)

saki kure: niga: numun (酒ぐらいなど飲む)

saki kure: nre: numun jo: (酒ぐら

いなど飲むよ)

tabaku kure: ?atai φuki: su:ru (煙草ぐらいなど吸うはずだ)

ta:tji kure: na: ja ?ai su:ru (二つずつぐらいはあるでしょう)

tjira: kure: tjun ?arara n (顔などさえ洗わない)

tjira: kure: jatin ?arare: (顔ぐらいでも洗え)

4) 係助詞に接する。

?uja kure: ja wuin jo: (親などはいらっしゃるでしょう)

?uja kure: n wura n (親などもいない)

?uja kure: jatin wui ne: jimu figa (親などでもいるとよいのだが)

?uja kure: ru wuiru (親などがいるのだ)

?uja kure: ga wuira (親などがいるのかしら)

5) 連体助詞に接する。

tugutji kure: nu tjfu (渡久地あたりの人)

ti: kure: nu kidzi (手などの傷)

4, 6 ?atai, hatai (ぐらい, あたり, など)

動作や状態の程度を例示的に示す。

【うける形式】

1) 体言をうける。

?an ?atai ja nain (あのぐらいはできる)

nagu ?atai ja ?iki ju:sun (名護あたりは行くことができる)

?un ?atai ja jumi ju:sun (このぐらいは読むことができる)

2) 活用語の連体形をうける。

hakun ?atai ja nain (書くぐらいはできる)

takafe:nu ?atai ja nu: n jara n (高いぐらいはなんでもない)

haka sun ?atai ja nain (書かせるぐらいはできる)

numi bufe:nu ?atai ja nidgira ri:n (飲みたいぐらいはがまんでできる)

3) 準体助詞をうける。

tui ji ?atai ja nain (取ることぐらいはできる)

?iku: ji ?atai ja nain (行くことぐらいはできる)

4) 並列助詞をうける。

φaru: tu ?umi tu ?atai ja ?ikun (畑と海とぐらいは行く)

mugi: nuja ?awa: nuja ?atai ja ?uijun (麦やら粟やらあたりは植える)

φaru: ka ?umi ka ?atai ja ?ikun (畑か海かぐらいは行く)

ti: jara çisa jara ?atai ja ?a-rare: (手やら足やらあたりは洗いなさい)

?wa: tyka ma: tyka ?atai ja ji-kanajun (豚とか馬とかぐらいは飼う)

5) 格助詞をうける。

?ja: ga ?atai sa nne: nara n (君があたりしなければならぬ)

ma: nu ?atai ja ke: sa (馬がぐらいは食うよ)

?uja ne: ?atai ja ?jun jo: (親にぐらいは言うよ)

haki ga ?atai ja ?ike: sa n ni (書きにぐらいは行くのではないか)

?uja tu ?atai ja ?ike: sa n ni

(親などは行くでしょう)

?u_{ja} ʔgati ?atai ja ge:sa n jo:

(親へなどは口答えしないでしよう)

nagu hara ?atai ja ke: sa n ni

(名護からあたりは来るでしょう)

kumi: si ?atai ja sykojun jo:(米
あたりは作るよ)

tugutji ne:ti ?atai ja ?ure: sa
n ni (渡久地あたりは売っているでし
ょう)

hakun ri ?atai ja ?jun (書くとぐら
いは言うよ)

6) 副助詞をうける。

wugi: bake: ?atai ja ?ui ju:sun
(砂糖きびばかりぐらいは植えること
ができる)

nagu mari: ?atai ja ?iki ju:sun
(名護まであたりは行くこと
ができる)

kusa niga: ?atai ja hai ju:sun
(草などぐらいは刈ることが
できる)

?e:ku nre: ?atai ja sjikai ju:sun
(襦などぐらいは使うこと
ができる)

ʔani:ʔgi kure: ?atai ja ?iku: si-
ga (羽地あたりぐらいは行く
でしょう)

mi:tji na: ?atai wakijun (三つぐら
いずつ分ける。

tʃun (さえ), jatin (でも)はうけえない。

【接する形式】

1) 並列助詞に接する。

wan ?atai tu ?an ?atai nu mun
nu ?idgi simu: gaja: (私ぐら
いとあれぐらいのものが行
っていかしら)

?un ?atai nuja ?an ?atai nuja
nu mun nu ?ohosen (これぐら
いやらあれぐらいやらのもの
が多い)

?un ?atai ka ?an ?atai nu mun

je: sa (これぐらいかあれぐら
いのものだよ)

?un ?atai jara ?an ?atai jara
?iru?iru ?ain (これぐら
いやらあれぐら
いやいろいろある)

?an ?atai tyka ?ja: ?atai tyka
ga ?iki ne: maffsen jo: (あれぐ
らいとか君ぐらいとかが行
けばよい)

2) 格助詞に接する。

?uʔutʃu ?atai ga ru nairu (大
人あたりができるのだ)

warabi ?atai nu nain (子供ぐ
らいができる)

wara:bi ?atai ne: ?ufe:ra rin
na: (子供ぐら
いに馬鹿にされるか)

?an ?atai tu ja ʔanaʃi: n nara
n (あれぐら
いとは話もできない)

wara:bi ?atai ʔgati saki numa
tʃara ja nara n (子供などへ酒
を飲ましてはいけ
ない)

?an ?atai hara ja ?uʔutʃu ro:
(あれぐら
いからは大人だぞ)

?an ?atai jo:kan tʃu:ʃen (あれぐ
らいより強い)

?an ?atai si nain na (あれぐら
いでできるか)

?un ?atai ne:ti jamatʃan (これぐ
らいの時に痛めた)

?an ?atai ri ?jun (あれぐら
いという)

3) 副助詞に接する。

warantʃa: ?atai bake: ?atʃimijun
(子供たちあたりばかり集
める)

warantʃa: ?atai mari: ?atʃimajun
(子供たちあたりまで集
まる)

nagu ?atai niga: ja ?iki ju:sun
(名護あたりなどは行ける)

?un ?atai nre: nain (これぐらいはできる)

?un ?atai kure: ja nai su:ru (これあたりぐらいはできるでしょう)

ti:tji ?atai na: wappu:sun (一つぐらいずつ分ける)

midgi ?atai tjun numa n (水ぐらいさえ飲まない)

midgi ?atai jatin nume: (水ぐらいでも飲みなさい)

4) 係助詞に接する。

midgi ?atai ja numun (水ぐらいは飲む)

midgi ?atai n numa n (水ぐらいいも飲まない)

midgi ?atai jatin nume: (水ぐらいいでも飲みなさい)

midgi ?atai ru numu:ru (水ぐらいいしか飲まない)

midgi ?atai ga numu:ra (水ぐらいいしか飲まないだろうか)

5) 連体助詞に接する。

wan ?atai nu mun nu nara n (私ぐらいいのものができない)

?an ?atai nu tju: ja wura n (あれぐらいいの人はいない)

4, 7 na:(ずつ)

配当する事物の等量を表わす。

【うける形式】

1) 体言をうける。

ta:tji na: ki:jun (二つずつくれる)

tjui na: ?ikun (一人ずつ行く)

?ikutji: na: tji wakiju ga (いくつずつに分けるか)

2) 並列助詞をうける。

ta:tji tu mi:tji tu na: he:jun (二つと三つとずつ替える)

mi:tji ka ju:tji ka na: nain (三歳か四歳かずつになる)

3) 格助詞をうける。

?ikytji: tu na: he:ta ga (いくつとずつ替えたか)

?ikutji: ttagati na: waki: ga (いくつへずつ分けるか)

?ikytji: hara na: wakira ri: ga (いくつからずつ分けられるか)

4) 副助詞をうける。

tjassa: bake: na: su: gaja: (いくらばかりずつするのかしら, どのぐらいいするのかしら)

?ussa: mari: na: ru nairu (これまでずつできるのだ。これまでしかできない)

mi:tji niga: na: ja nain jo: (三歳ぐらいいずつはなるはずだよ。三歳ぐらいいはなるよ)

ju:tji nre: na: ja nai su:ru (四歳ぐらいいにはなるよ)

?inu ?atai na: wakijun (同じずつぐらいいに分ける)

?uppi ntja: na: ru ki:ju sa ja: (これぼちちずつあげるのだね)

【接する形式】

1) 並列助詞に接する。

ti:tji na: tu ta:tji na: ttagati wakijun (一つずつと二つずつに分ける)

ti:tji na: nuja ta:tji na: nuja

ttagati wakijun (一つずつやら二つずつやらに分ける)

ti:tji na: ka ta:tji na: tji wa-

kire:(一つずつか二つずつへ分けなさい)
 tʃuke: na: jara takke: na: jara
 hajasun (一つずつやら二回ずつやら運ぶ)
 tʃui na: tʃuka tai na: jarasun (一
 人ずつか二人ずつ行かせる)

2) 格助詞に接する。

tʃuke: na: ne: hajafe: (一つずつに運
 びなさい)

mi:tʃi na: tu he:jun (三つずつと交換
 する)

ta:tʃi na: ŋgati wakijun (二つずつへ
 分ける)

ti:tʃi na: hara sʃukojun (一つずつか
 ら作る)

mi:tʃi na: jo:kan ki: ju:sa n (三
 つずつよりあげることができない)

?ikʃtʃi: na: ʃi sʃukoi ga (いくつ
 ずつで作るか)

?ikʃtʃi: na: ne:ti wakata ga (なん
 歳頃にわかったか)

?ikʃtʃi: na: ri ?ju:ta ga (いくつ
 ずつと言っていたか)

3) 副助詞に接する。

ti:tʃi na: bake: ki:jun (一つずつば
 かりあげる)

ta:tʃi na: mari: ki:jun (二つずつま
 であげる)

mi:tʃi na: niga: ja ki: ju:sa n
 (三つずつなどはあげることができない)

mi:tʃi na: nre: ki:re: (三つずつなど
 あげなさい)

?ikʃtʃi: na: kure: ki:ju ga (いくつ
 ずつぐらいあげるのか)

?itʃitʃi: na: ?atai wakijun (五つ
 ずつぐらい分ける)

tʃuke: na: tʃun hajasa n (一つずつさ
 え運ばない)

tʃuke: na: jatin hajafe: (一つずつで
 も運べ)

4) 係助詞に接する。

tʃuke: na: ja ?idziko: (一つずつは行
 てこい)

tʃuke: na: n ?ika n (一つずつも行か
 ない)

tʃuke: na: run ?idziki: ne: ʃimun
 (一回でも行ってくるとよい)

tʃuke: na: ru ?idziku:ru (一つずつ行
 って来るのだ)

tʃuke: na: ga ?idziku:ra (一つずつ行
 ってくるのかしら)

5) 連体助詞に接する。

takke: na: nu ni: nu ?ain (二回
 ずつの荷がある)

mi:tʃi na: nu tabai (三つずつの束)

4, 8 ntʃa:(だけ, きり, ぼっち, さえ)

限度を表わす。

【うける形式】

1) 体言をうける。

?uppi ntʃa: nokosun na (これぼっち残
 すのか)

tʃui ntʃa: nokosun (一人だけ残す)

2) 準体助詞をうける。

ke: ʃi ntʃa: ja mo:kijun (食べるの
 だけは儲ける)

ʃikai ʃi ntʃa: ja ?are: sa n ni
 (使うのだけはありはしないか)

3) 並列助詞をうける。

tʃʃijui tu warabi tu ntʃa: nokosun
 (老人と子供とだけ残す)

ʔari: ka ʔja: ka ntʃa: ja nokora
nne: nara n (あれか君かだけは残らない
といけない)

4) 格助詞をうける。

nan ga ntʃa: nara mu wan ga nai
mi (あなたがさえできないのに私ができるの
か)

tʃo:re: nu ntʃa: ju:sa n (兄弟がさ
えよくしない)

ʔuttu ne: ntʃa: makijun (弟にさえ負
ける)

ʔuja tu ntʃa: ʃanaʃi:sa n (親とさえ
話さない)

ʔuja ʃgati ntʃa: ʔja n (親へさえ言
わない)

nagu hara ntʃa: ki: ba ʃimu ʃiga
(名護からさえ来ればよいのに)

ʔuʃʉttʃu jo:kan tʃa: maʃi re:ru (大
人よりさえよいのだ)

ti:tʃi ʃi ntʃa: nu: n nara n (一
つでけなにもできない)

piru ne:ti ntʃa: ʃiʃʉki ne: ʃimu
ta: mu (昼でさえやっておけばよかったの
に)

5) 副助詞をうける。

tʃui bake: ntʃa: nokosa ra n (一人
ばかりだけ残せない)

nagu mari: ntʃa: ʔiki ju:sa n (名
護までさえ行けない)

tʃui niga: ntʃa: nokotara ja nara
n (一人だけ残ってはいけない)

ʔun ʔatai ntʃa: ja nu: n jara n
(このぐらいだけはなんでもない)

ti:tʃi na: ntʃa: ja ʃage: (一つずつ
だけは配りなさい)

【接する形式】

1) 格助詞に接する。

tʃui ntʃa: nu nokoju sa (一人だけが
残るよ)

ʔuppi ntʃa: ne: ʔo: jun na (これぼっ
ちで喧嘩するか)

tʃui ntʃa: tu ʃanaʃi:sun (一人だけと
話する)

tʃui ntʃa: ʃgati ʔjun (一人だけへ言
う)

tʃui ntʃa: hara ku:n (一人だけから来
る)

tʃui ntʃa: jo:kan maʃi (一人だけより
よい)

tʃui ntʃa: ʃi nain na: (一人だけでで
きるか)

ʔuppi ntʃa: ri ʔjun (これだけという)

2) 副助詞に接する。

ʔuppi ntʃa: bake: ja muttʃiʔika ra
n (これぼっちはばかりは持っていけない)

ʔuppi ntʃa: mari: muttʃiʔikun na
(これぼっちまで持っていくか)

ʔuppi ntʃa: niga: ʃiʃʉre: (これぼっ
ちなど捨てなさい)

ʔuppi ntʃa: nre: nokosa ra n (こ
れだけなど残せない)

ʔuppi ntʃa: kure: nu: su: ga (これ
ぼっちぐらいどうするのか)

ʔuppi ntʃa: ʔatai ja nain (これぼっ
ちぐらいはできる)

ʔuppi ntʃa: na: nu: su: ga (これだ
けずつでどうするのか)

ʔuppi ntʃa: tʃun ki:ra n (これぼっ
ちさえくれない)

ʔuppi ntʃa: jatin muttʃiko: (これぼっ

ちでももってこい)

3) 係助詞に接する。

tʃui ntʃa: ja nokosa n (一人だけは残さない)

tʃui ntʃa: n nokora n (一人だけも残らない)

tʃui ntʃa: jatin nokosa n (一人だけでも残さない)

tʃui ntʃa: ru nokoiru (一人だけ残るのだ)

tʃui ntʃa: ga nokoira (一人だけ残るのかしら)

4) 連体助詞に接する。

?uppi ntʃa: nu mun (これぼっちのもの)

tʃui ntʃa: nu kwa: (一人だけの子)

4, 9 ka (まで)

限度を表わす。

【うける形式】

動詞の連体形をうける。

haku: ka ka ntan (書くまで来なかった)

ju: kuiru ka ke:tika n (日が暮れるまで帰って来ない)

【接する形式】

係助詞に接する。

haku: ka ja mattʃu: isa n (書くまでは待っていることができない)

dʒi: haku ka n ka: n (字を書くまでも来ない)

?ari: ga ku: ka run mattʃi: ne: ʃimu ʃiga (彼が来るまでも待っているといいのだが)

ju: kuiru ka ru ka nte: sa (日が

暮れるまで来なかったにちがいないよ)

ju: kuiru ka ga ka nte:ra (日が暮れるまで来なかったのかしら)

4, 10 tʃun (さえ)

極端な例を示し、他の場合も当然であることを類推させる。また、その条件だけで事柄が足りることを表わす。副助詞どうしの重なりで、tʃunは他の副助詞の前には来ないで、ほとんどそれらの後に来るところからすれば、係助詞的性格ももつ助詞だと解される。

【うける形式】

1) 体言をうける。

tʃa: tʃun numa n (お茶さえ飲まない)

?imi tʃun mira n (夢さえ見ない)

?uja tʃun wuri: ba ʃimu ʃiga (親さえおればいいのだが)

2) 活用語の連用形、接続形をうける。

haki tʃun sa: n (書きさえしない)

hatʃi tʃun wura n (書いてさえいない)

takaku tʃun ne: n (高くさえない)

takasati tʃun ?ari: ba ʃimu ʃiga (高くてさえあればよいのだが)

haka ʃi tʃun sa: n (書かせさえしない)

haka tʃi tʃun wura n (書かせてさえいない)

?iki buku tʃun ne: n (行きたくもない)

3) 準体助詞をうける。

?iku: ʃi tʃun wuri: ba ʃimu ʃiga (行く人さえおればいいのだが)

ra: gara tʃun so:ti?iki ne: ?iso:-sa su: ʃiga (どこかさえつれていけば喜ぶのだが)

4) 並列助詞をうける。

?ja: tu wan tu tʃun nokora nne:
nara n ʃiga (君と私とさえ残らないとい
けないが)

ma: nuja ʔufi nuja tʃun ka: n (馬
やら牛やらさえが食わない)

?uttu ka ʃidga ka tʃun taruma n
(弟か兄かさえも頼まない)

mugi: jara ʔawa: jara tʃun ʔui
ju:sa n (麦やら粟やらさえ植えることが
できない)

tʃawan tʃuka mahai tʃuka tʃun ʔa-
rara n (茶碗とかおわんとかさえ洗わない)
4) 格助詞をうける。

wan ga tʃun nain (私がさえできる)
wara:bi nu tʃun nain (子供がさえでき
る)

ja: ne: tʃun wura n (家にさえいない)
haki: ga tʃun ʔika n (書きにさえ行
かない)

?uja: tu tʃun ʔika n (親とさえ行か
ない)

nagu ʔgati tʃun ʔikun ro: (名護へさ
え行くぞ)

naʔa hara tʃun ku: mu (那覇からさえ
来るものを)

ʔasan ʃi tʃun kira ri:n (鉄でさえ
切れる)

ʔaru ne:ti tʃun nimbun (畑でさえ眠
る)

mi:n ri tʃun ʔja: n (見るとさえ言わ
ない)

5) 副助詞をうける。

?uttu bake: tʃun wuri: ba ʃimu:sa
(弟ばかりさえおればよい)

tunai mari: tʃun ʔika n (隣までさえ

行かない)

saki niga: tʃun numa n ne: ʃimu
ʃiga (酒などさえ飲まないといいのだが)

midgi nre: tʃun numi ne: maʃʃe:
ʃiga (水などさえ飲めばよいのだが)

?ami kure: tʃun ʔuri: ba ʃimu
ʃiga (雨などさえ降ればよいのだが)

?an ʔatai tʃun nara n (あのぐらいた
えできない)

ti:tʃi na: tʃun ki:ra n (一つずつさ
えくれない)

?uppi ntʃa: tʃun ne:n (これぼっちさえ
ない)

6) 接続助詞 ba (ば), gaʃina:(ながら)
をうける。

haki: ba tʃun ʃimun te: (書けばさえ
よいのだが)

?iki gaʃina: tʃun jura n (行きなが
らさえよらない)

【接する形式】

1) 副助詞 jatin (でも) に接する。

ti:tʃi tʃun jatin ki:ra n (一つさえ
でもくれない)

midgi tʃun jatin numi ne: ʃimu
ʃiga (水さえでも飲むとよいのだが)

2) 係助詞に接する。

?ami tʃun ja ʔuri: ba ʃimu ʃiga
(せめて雨さえ降ればよいのだが)

?ami tʃun n ʔura n (雨さえも降らな
い)

jikigaʔgwa tʃun run wui ne: ʃimu
ʃiga (男の子さえでもいるといいのだが)

midgi tʃun ga numa nra (水さえ飲ま
ないのかしら)

4. 11 jatIn (でも)

ある事柄を例示的に示す。例示されるものが極端なあるいは特殊な場合は、他の場合ももちろんであるという意を言外に表わす。jatinも他の副助詞の前には来ないで、ほとんど他の副助詞の直後に来るところからすれば、係助詞的性格も合わせもつものと解される。

【うける形式】

1) 体言をうける。

midzi jatin numi bufen (水でも飲みたい)

wara:bi jatin ?iki ju:sun (子供でも行ける)

2) 活用語の連用形をうける。

haki jatin si ne: simun (書きでもするとよい)

takaku jatin ?ai ne: simu siga (高くでもあるといいのだが)

haka si jatin si: ne: simun (書かせでもするとよい)

3) 準体助詞をうける。

mi: si jatin muttfiko: (見るものでも持って来い)

ta: gara jatin so:ti:?ike: (誰かでもつれていけ)

4) 並列助詞をうける。

?ja: tu wan tu jatin ?ika (君と私とでも行こう)

ma: nuja ?ufi nuja jatin ka: n (馬やら牛やらでも食わない)

?ja: ka ?ari: ka jatin simun (君かあれかでもよい)

ti: jara tfira: jara jatin ?arare: (手やら顔やらでも洗え)

ti: tuka çisa tuka jatin ?arara n

(手とか足とかでも洗わない)

5) 格助詞をうける。

wan ga jatin nain (私がでもできる)

ma: nu jatin ka: n (馬がでも食わない)

nagu ne: jatin ne:n (名護にでもない)

haki: ga jatin ?ika n (書きにでも行かない)

tfu: tu jatin ?ikun (他人とでも行く)

φaru φgati jatin ?idge: sa (畑へでも行ったに違いないよ)

tugutji hara jatin ku:n jo: (渡久地からでも来るよ)

ti: si jatin sukora ri:n (手ででも作れる)

tunai ne:ti jatin ?afibun (隣でも遊ぶ)

φatarakun ri jatin ?i: ba simu: sa (働くとも言えばよい)

6) 副助詞をうける。

?uttu bake: jatin so:ti:?ike: (弟ばかりでもつれていけ)

nagu mari: jatin ?ikun (名護まででも行く)

?imi niga: jatin mitfe: sa (夢などでも見たんでしょう)

tfa:waki nre: jatin ho:tiko: (お茶菓子でも買ってこい)

?an kure: jatin nari: ba simu: sa (あのぐらいでもできるとよいのだが)

?an ?atai jatin nari: ba ja: (あのぐらいでもできればね)

ti: tfi na: jatin muttfiko: (一つずつでも持ってこい)

?uppi ntʃa: jatin fimun (これぼっち
でもいい)

sa:ta: tʃun jatin ne:n (砂糖さえで
もない)

7) 接続助詞 ba (ば), gafina: (ながら)
をうける。

haki: ba jatin fimun te: (書くので
あればよいのだが)

jumi gafina: jatin hakun (読みなが
らでも書く)

【接する形式】

係助詞 ru (ぞ), ga (か) に接する。

?uttu jatin ru wuiru (弟でもいるの
だ)

?uttu jatin ga wuira (弟でもいるの
かしら)

5. 係 助 詞

係助詞は文末と呼応関係を示す助詞で、他の
いかなる助詞にも接しえない助詞である。

5. 1 ja (は)

ある対象を他と区別して提示するはたらきが
ある。提示されるものは文の成分であり、また、
話手と聞き手にとってよく知られているものであ
る。提示された結果は、区別または対比の意が
あらわれる。結びは終止形である。

【うける形式】

1) 体言をうける。

wan ja ?ikun (私は行く)

ku: ja ?atʃifɛn (今日は暑い)

ku: ja ʃi:pi: jen (今日はよい日だ)

2) 活用語の連用形、接続形をうける。

haki ja sun (書きはする)

hatʃi ja wura n (書いてはいない)

takaku ja ne:n (高くはない)

haka ʃi ja sa n (書かせはしない)

haka tʃi ja wura n (書かせてはいな
い)

haki buku ja ne:n (書きたくはない)

3) 準体助詞をうける。

haku ʃi ja ne:n (書くのはない)

ta: gara ja so:ti?ike: (誰かはつれ
ていけ)

4) 並列助詞をうける。

ʃaru: tu ?umi tu ja ?ikun (畑と海
とは行く)

ti: nuja ʃisa nuja ja ?arajun (手や
ら足やは洗う)

?ja: ka wan ka ja wura nne: na-
ra n (君か私かはいなければならない)

kwa: jara ma:ga jara ja manri:n
(子供やら孫やらは多い)

ma: tʃka ?ufi tʃka ja tʃu:ʃɛn (馬
とか牛とかは強い)

5) 格助詞をうける。

?ari: ga ja nain (彼<が>はできる)

tui nu ja ka: n (鳥<が>は食わな
い)

tunai ne: ja wura n (隣にはいない)

haki: ga ja ?ika n (書きには行かな
い)

?uja tu ja ?ika n (親とは行かない)

?umi ʃgati ja ?ika n (海へは行か
ない)

nagu hara ja ku:n (名護からは来る)

?ari jo:kan ja takasɛn (あれよりは
高い)

kumi: ʃi ja sukora n (米では作らな
い)

φama ne:ti ja ?afiba n (浜では遊ばない)

hakun ri ja ?ja n (書くとは言わない)

6) 副助詞をうける。

mugi: bake: ja ka:ra n (麦ばかりは食えない)

φaru mari: ja ?ikun (畑までは行く)

midzi niga: ja numun (水などは飲む)

midzi nre: ja nume: sa n ni: (水などは飲みはしないか。水などは飲むでしょう)

nagu kure: ja takafen (名護あたりは高い)

?unu ?atai ja nain (これぐらいはできる)

ti:tji na: ja ki:re: (一つづつはあげなさい)

tjui ntja: ja nokora n (一人だけは残らない)

haku: ka ja wui ju:sa n (書くまではいることができない)

tunai tjun ja ?ika n (隣さえも行かない)

7) 接続助詞をうける。

?ja: mari: ?iki: ba ja nara n (君まで行くといけない)

?ari: ga wakai ne: ja jurusa n (彼がわかると許さない)

juφyti: si ja ra: gara nu waffe: tu ja jara n gaja: (休んでいるいるのはどこか悪いからではなかろうか)

haki gafina: ja juma ra n (書きながらは読めない)

5, 2 n (も)

同類のものが他にも共存していることを言外に示しつつ、ある事柄を提示する。具体的には次のように用いられる。

① 事情の類似したものが他にもあることを言外に表わす。

② 事情の類似したものを列挙する。

③ 極端な場合を例示し、他の場合にも同様であることを表わす。

④ 予期されている程度を越えていたり、限界に達していたりすることを表わす。

n(も)も終止形で結ぶ。

【うける形式】

1) 体言をうける。

φana: n sakun (花も咲く。①の用法)

?uja: n kwa: n ku:n (親も子も来る。

②の用法)

mi:tjiφgwa: n wakajun (三歳児もわかることだ。③の用法)

φytji:ka n tjidzikun (二日も続く。④の用法)

2) 活用語の連用形、接続形をうける。

haki: n sa: n (書きもしない)

hatji n wura n (書いてもない)

takaku n ne:n (高くもない)

taka sati n nubujun (高くても登る)

haka si n sa n (書かせもしない)

haka tjia n wura n (書かせてもない)

haki buku n ne:n (書きたくもない)

haki busati n haka n (書きたくても書かない)

3) 準体助詞をうける。

haku: si n wakara n (書くのもわからない)

takafe: si n simun (高いのもいい)

ta: gara n wakara n (誰かもわからない)

4) 並列助詞をうける。

?ja: tu ?uttu tu n mi:waki ju:-
sa n (君と弟とも見分けることができない)

?ari nuja φuri nuja n wakara n
(あれやらこれやらもわからない)

?uttu ka fidza ka n wakara n
(弟か兄かもわからない)

nu: jara φui jara n wakara n
(なんやらかんやらもわからない)

tfo:re: tyka mi:kkwa tyka n manri:n
(兄弟とか甥姪とかも多い)

5) 格助詞をうける。

?ari: ga n nain (あれがもできる)

tui nu n ka: n (鳥がも食わない)

?ari ne: n ?jun (あれにもいう)

haki ga n ?ika n (書きにも行かない)

taru tu n ?ika n (誰とも行かない)

?umi φgati n ?ikun (海へも行く)

tugutji hara n ku:n(渡久地からも来る)

kikai si n sukojun (機械でも作る)

φama ne:ti n ?afibun (浜でも遊ぶ)

?ja ri n ?jun (君ともいう)

6) 副助詞をうける。

kwa: n ja: bake: n ?ika ra n

(子供の家ばかりも行けない)

ra: mari: n ?u:ti?ikun(どこまでもつ
いていく)

kusa niga: n hain (草なども刈る)

kusa nre: n tura: (草などでもとろう)

?an kure: n nara n (あのぐらいもで
きない)

taba:ku ?atai n φuka n (煙草ぐら
いも吸わない)

?içi na: n ki:ra n (少しずつもあげ
なさい)

?uppi: ntja: n ne:n (これぼっちもな
い)

haku: ka n ka: n (書くまでも来な
い)

midzi tjun numa n (水さえも飲まない)

7) 接続助詞 ba(ば), gafina:(ながら)
をうける。

?ari: ja ?ika ba n simun (彼は行
こうがかまわない)

ke: gafina: n ?jun (食べながらもいう)

5, 3 run (なんぞ, さえ)

事柄を強調して示す。runは条件文の中で用
いられる傾向がある。ja(は), n(も)と
同じく、終止形で結ぶ。

【うける形式】

1) 体言をうける。

dzi: run haki ju:si ne: simu siga
(字さえ書ければよいのだが)

midzi run numi ne: no:jun (水さえ
飲めばなおる)

2) 活用語の連用形, 接続形をうける。

haki run si: ne: simun jo:(書きさ
えすればよい)

hatji run wui ne: simun (書いてさ
えおればよい)

takaku run ?ai ne: dzo:to: (高くさ
えあれば上等だ)

haka si run si: ne: nara n (書か
せなんぞしたらいけない)

haka tji run wui ne: nara n (書
かせてなんぞいたらいけない)

haki busa run ?ai ne: hake:(書き

たくなんぞあったら書け)

3) 準体助詞をうける。

?iku: ʃi run wui ne: tarume: (行くのがいたら頼みなさい)

ra: gara run ?idʒe:n te: (どこかなんぞ行ったにちがいない)

4) 並列助詞をうける。

?uttu tu ʃidʒa tu run wui ne: ʃimun (弟と兄とさえおればよい)

ma: nuja ?uʃi nuja run ʃikanai ne: ?itʃunafʃiku nain (馬やら牛やらなんぞ飼ったら忙しくなる)

?uja ka tʃo:re: ka run wui ne: ʃimun (親か兄弟かさえおればよい)

?ari jara ?uri jara run ?iki ne: sabi:ku nain (あれやらこれやらなんぞが行くと淋しくなる)

ti: tʃka ʧisa tʃka run jamafi ne: nara n (手とか足とかなんぞ痛めたらいけない)

5) 格助詞をうける。

?ja: ga run haki ne: matʃiga:ra n (君がさえ書けば間違わない)

tui nu run ke: ne: nara n (鶏がなんぞ食ったらいけない)

ja: ne: run wui ne: ʃimun (家にさえいたらよい)

haki ga run ?idʒe:n jo: (書きになんぞ行ったにちがいない)

?uja tu run ?idʒe:n jo: (親となんぞ行ったにちがいない)

?umi ʋgati run ?iki ne: nara n (海へなんぞ行ってはいけない)

nagu hara run ki: ne: ʃimun (名護からなど来たらよい)

kikai ʃi run sukoi ne: he:ʃen (機械などで作ったら早い)

?umi ne:ti run ?afibi ne: re:dʒi je: sa (海などで遊んでは大変だよ)

jamun ri run ?i: ne: jurusu ʃiga (痛いなどいうと許すのだが)

6) 副助詞をうける。

dʒin bake: run ʃikai ne: nara n (お金ばかり使ってはいけない)

?uja mari: run kumarafi ne: nara n (親までも困らせてはいけない)

tabaku niga: run ʃyuki ne: nara n (煙草なんぞ吸うといけない)

saki nre: run numi ne: nara n (酒なんぞ飲むといけない)

?an kure: run nai ne: ʃimun jo: (あのぐらいなんぞできたらいいよ)

?an ?atai run nai ne: dʒo:to: (あのぐらいなんぞできたら上等だ)

ti:tʃi na: run ?atai ne: ʃimun jo: (一つずつでも当るといいよ)

ti:tʃi ntʃa: run ?ai ne: tara n (一つだけなんぞあると足りない)

ju: kuiru ka run ka n ne: ʃiwa-sun (日が暮れるまで帰らないと心配する)

ma:ga tʃun run ?utʃuki ne: ʃimu ʃiga (孫さえおいておけばよいのだが)

7) 接続助詞 ba (ば), gaʃina: (ながら) をうける。

haki: ba run nain te: (書かないといけないでしょう)

haki gaʃina: run jumi ne: wakajun (書きながら読むとわかる)

5, 4 ru (ぞ)

事柄を強調して示す。文末に一定の結びの形を要求する。

【うける形式】

1) 体言をうける。

dsi: ru haku:ru (字を書くのだ)
sumutji ru jumu:ru (書物を読むのだ)

2) 活用語の連用形, 接続形をうける。

haki ru su:ru (書くのだ)
hatji ru wuiru (書いているのだ)
takaku ru ?airu (高いのだ)
takasati ru ?ate:n te: (高かったの
でしょう)
haka si ru su:ru (書かせるのだ)
haka tji ru wuiru (書かせているのだ)
haki busa ru ?airu (書きたいのだ)

3) 準体助詞をうける。

haku si ru ?airu (書くのがあるのだ)
nu: gara ru ?airu (なにかがあるのだ)

4) 並列助詞をうける。

mami: tu re:kuni tu ru ?uiru (豆
と大根とを植えるのだ)
haja: nuja gufi:ki nuja ru mui-
juru (茅やらすすきやらが生えるのだ)
mami: ka ?akare:kuni ka ru ?uiru
(豆か人参かを植えるのだ)
fa: jara jura jara ru mo:suru
(葉やら豆やらを燃やすのだ)
sina tyka bubu:ru tyka ru sika:ru
(砂とか砂利とかを使うのだ)

5) 格助詞をうける。

wan ga ru ?iku:ru (私が行くのだ)
tui nu ru tubu:ru (鳥が飛ぶのだ)
ja: ne: ru wuiru (家にいるのだ)
haki ga ru ?iku:ru (書きに行くのだ)
?uja tu ru ?iku:ru (親と行くのだ)

φaru φgati ru ?iku:ru (畑へ行くの
だ)

siku:tji hara ru ke:tiku:ru (仕事か
ら帰って来るのだ)

wugi: si ru sykoiru (砂糖きびで作る
のだ)

ja: ne:ti ru ?ajiburu (家で遊ぶの
だ)

hakun ri ru ?ju:ru (書くと言うの
だ)

6) 副助詞に接する。

siku:tji bake: ru su:ru (仕事ばかり
するのだ)

?i:dgima mari: ru ?iku:ru (伊江島
まで行くのだ)

saki niga: ru nure:ru (酒なんぞ飲ん
でいるのだ)

?imi nre: ru mitje:ru (夢なんぞ見た
んでしょう)

?an kure: ru nairu (あのぐらいしかで
きないのだ)

?un ?atai ru nairu (このぐらいしか
できないのだ)

ti:tji na: ru φagu:ru (一つずつ配る
のだ)

?uppi ntfa: ru nairu (これぼっちし
かできないのだ)

niriru ka ru ka:te:ru (飽きるほど
食べているのだ)

kusa jatin ru hati:ru (草でも刈り
ているのだ)

7) 接続助詞に接する。

haki ba ru je:ru (書かないといけな
い)

haki ne: ru wakairu (書くとわかるの

だ)

haku ſiga ru wakara nru (書くけれどもわからないのだ)

haku: tu ru wakairu (書くからわかるのだ)

haki gafina: ru jumu:ru (書きながら読むのだ)

以上のように、ru(ぞ)は—ruの形(ru係結形)で結ぶのが普通である。ただし、終助詞で文を止める時は、ru(ぞ)があっても、—n(終止形)で結ぶ。

dʒi: ru hakun jo: (字を書くのだよ)

midʒi: ru numun te: (水を飲むんでしよう)

?ami: ru φuin na: (雨が降るのか)

?ari: ga ru ?ikun ro: (彼が行くのだぞ)

また、準体形に終助詞がついた形ででも結ぶ。

?ari: ga ru ?iku: mi (あれが行くのかね)

dʒi: ru haku: sa (字を書くのだよ)

nama ru ?iku: sa (今行くのだ)

5. 5 ga (か)

疑問または不確かなことを表わす。文末は—raの形(ga係結形)で結ぶ。

【うける形式】

1) 体言をうける。

dʒi: ga haku:ra (字を書くのかしら)

?ami: ga φuira (雨が降るのかしら)

?uttu ga takafe:ra (弟が高いのかしら)

2) 活用語の連用形、準体形、接続形をうける。

haki ga su:ra (書くのかしら)

haku: ga su:ra (書いているのかしら)

hatʒi ga wuira (書いているのかしら)

takaku ga ?aira (高いのかしら)

takafe: ga su:ra (高いのかしら)

takasati ga ſikara ra nra (高く使えないのかしら)

haka ſi ga su:ra (書かせるのかしら)

haka tʒi ga wuira (書かせているのかしら)

haki bufe: ga su:ra (書きたいのかしら)

3) 準体助詞をうける。

haku ſi ga ?aira (書くのがあるのかしら)

nu: gara ga ?aira (なにかがあるのかしら)

4) 並列助詞をうける。

kwai tu hama tu ga muttʒi?iku:ra (鍬と鎌とを持って行くのかしら)

ti: nuja ʒisa nuja ga ?araira (手やら足やらを洗うのかしら)

?uttu ka ſidga ka ga wuira (弟か兄かがいるのかしら)

ti: jara ʒisa jara ga jamu:ra (手やら足やらが痛むのかしら)

?wa: tuka ma: tuka ga ſikanaira (豚とか馬とかを飼うのかしら)

5) 格助詞をうける。

taru: ga ga wuira (誰かがいるのかしら)

hadʒi: nu ga φuku:ra (風が吹くのかしら)

ja: ne: ga wuira (家にいるのかしら)

haki ga ga ?iku:ra (書きに行くのかしら)

?uja tu ga ?iku:ra (親と行くのかしら)

nagu ōgati ga ?iku:ra (名護へ行くのかしら)

φaru hara ga ke:tiku:ra (畑から帰ってくるのかしら)

?uja jo:kan ga maffe:ra (親よりよいかしら)

kumi: ſi ga ſukoira (米で作るのかしら)

tunai ne:ti ga ?aſibura (隣で遊ぶのかしら)

?ikun ri ga ?ju:ra (行くというのかしら)

6) 副助詞をうける。

dſi: bake: ga haku:ra (字ばかり書くのかしら)

tugutſi mari: ga ?iku:ra (渡久地まで行くのかしら)

kusa niga: ga taira (草などを取るのかしら)

?imi nre: ga mitſara (夢などを見たのかしら)

?umi kure: ga ?attſakura (海など行っているのかしら)

?an ?atai ga naira (あのぐらいしかできないのかしら)

ti:ſi na: ga ki:ra (一つずつあげるのかしら)

?uppi ntſa: ga ?aira (これだけしかないのかしら)

ju: kuiru ka ga ka ntara (日が暮れるまで来なかったのかしら)

midſi ſfun ga ne:nra (水さええないのかしら)

?uttu jatin ga wuta:ra (弟でもいたのかしら)

7) 接続助詞をうける。

haki: ba ga je:ra (書かなければならないのかしら)

haku tu ga wakaira (書くからわかるのかしら)

tubi ne: ga wakaira (飛ぶとわかるのかしら)

haki gaſina: ga mi:ra (書きながら見るのか)

6. 連体助詞

体言を修飾する。

6. 1 ga (が)

主として人名，人を表わす代名詞，代名詞的に用いられた親族名称および体言などをうけて，それのかかっている体言を修飾する。

【うける形式】

1) 人名，人を表わす代名詞，代名詞的に用いられた親族名称および体言をうける。

gura: ga kwa: je: sa (五郎の子供だ)

?ari: ga mun ro: (あれのものだぞ)

?amma: ga kin ho:jun (母の着物を買う)

2) 準体助詞をうける。

kaku: ſi ga mun je: sa (書く人のものだ)

tui ſi ga mun ro: (取る人のものだ)

【接する形式】

体言に接する。

6. 2 nu (の)

体言をうけて，それのかかっている体言を修飾する。

【うける形式】

1) 体言をうける。

ma: nu ja: (馬の家)

ki: nu jura (木の枝)

ʔi:bi n saki (指の先)

2) 準体助詞をうける。

haku: si nu mun je: sa (書く人のもの)
のだ)tui si nu mun ro: (取る人のもの)
だぞ)

この表現が二人以上の関手に向かってなされ、
haku: si (書く人), tui si (取る人)
が関手の中の誰かをさす場合、いわゆる代名詞
的に用いられた時は、haku: si, tui si
は ga (が) でうけられる。ただし、これらが話
手と関係なく、一般概念として用いられたとき
は、上記のように、nu (の) でうけられる。

nu: gara nu ɸyta (なにかの蓋)

nu: gara nu si: (なにかの巣)

3) 並列助詞をうける。

ʔuja tu kwa: tu nu naha (親と子と
の仲)ʔufi nuja ma: nuja nu kusa: (牛や
ら馬やらの草)ʔufi: ka pi:dza: ka nu tʃinu: (牛か
山羊かの角)ʔuttu jara sidza jara nu mun (弟
やら兄やらのもの)ʔuttu tyka sidza tyka nu mun (弟
とか兄とかのもの)

4) 格助詞をうける。

ʔuja tu nu siɸu:tu nu ʔain (親と
の仕事がある)

ʔuja ɸgati nu mun (親へのもの)

ʔuja hara nu mun (親からのもの)

ti: si nu siɸu:tu (手での仕事)

ɸaru ne:ti nu kytu: (畑でのこと)

ʔikun ri nu ɸanaʃi: nu ʔain (行く
との話がある)ga (が, 主格), nu (の, 主格), ne:
(に), ga (に, 目的), jo:kan (より)
はうけえない。

5) 副助詞をうける。

wugi: bake: nu ɸaru: (砂糖きびばかり
の畑)

ɸaru: mari: nu mitʃi (畑までの道)

ki: niga: nu jura (木などの枝)

ma: nre: nu kusa (馬などの草)

ʔan kure: nu kwa: (あのぐらいの子供)

ʔan ʔatai nu tʃu: (あのぐらいの人)

tʃassa na: nu mun je: ga (いくらぐ
らいのものか)ʔuppi ntʃa: nu mun (これぼっちのもの)
ka (まで), tʃun (さえ), jatin (で
も) はうけえない。

6) 接続助詞 gaʃina: (ながら) をうける。

ke: gaʃina: nu ɸanaʃi: (食べながらの
話)ʔaʃibi gaʃina: nu kutu: (遊びながら
のこと)

【接する形式】

体言に接する。

7. 接続助詞

接続助詞は表現内容と表現内容を、時間的前
後関係や条件と帰結(原因と結果を含む)など
で結びつけるはたらきがある。

7. 1 ba (ば)

条件を表わす。

【うける形式】

1) 活用語の未然形をうける。

haka: ba mire: (書いたら見なさい)
takasara ba nubura ŋke: (高いならば登るな)

haka sa ba fimun (書かせたらいい)
haki busara ba hake: (書きたければ書け)

2) 活用語の条件形をうける。

haki: ba mire: (書けば見なさい)
takasari ba nubui na jo: (高ければ登るなよ)

haka ŋi ba fimun jo: (書かせばいいよ)

haki busari ba hake: (書きたければ書け)

【接する形式】

1) 並列助詞 tu (と), ka (か), tuka (とか)に接する。

haki: ba tu jumi: ba fimun (書けばと読めばよい。書いて読めばよい)

haki: ba ka jumi: ba fimun (書けばか読めばよい)

haki: ba tuka jumi: ba fimun (書けばとか読めばよい)

2) 格助詞 hara (から)に接する。

tatti ba hara ja na: sugu ?akkun (立てばからはもうすぐ)

?ukiri ba hara ja ?itfunafen (起きればからは忙しい)

3) 副助詞に接する。

haki: ba bake: nain na: (書くことばかりでよいか。よくない)

haki: ba mari: re: gaja: (書けばままであろうか)

haki: ba niga: wakain jo: (書けば

わかるよ)

haki: ba tjun fimu ŋiga (書きさえすればよいのだが)

haki: ba jatin fimun te: (書きでもすればよいものを)

4) 係助詞に接する。

haki ba ja nara n ŋiga (書いてはいけませんが)

?ari: ja haka ba n fimu: sa (彼は書いてもいいさ)

haki: ba run ŋi: ne: fimu: sa (書きさえすればよい)

haki ba ru nairu (書かないといけな

い)

haki ba ga je:ra (書かないといけな

いだろうか)

7, 2 ne:(と)
ある条件が備われば、必ずきまってある事柄が成立するという場合に、その条件を示す。

【うける形式】

活用語の連用形をうける。

haki ne: wakajun (書くとわかる)

takaŋe: ne: ho:i ju:sa n (高いと買うことができない)

haka ŋi ne: wakajun (書かせるとわかる)

haki buŋe: ne: haka sa n ne: nara n (書きたければ書かさないとけない)

【接する形式】

1) 格助詞 hara (から)に接する。

haki ne: hara ja he:ŋen ro:(書けばからは早いぞ。書くとなると早いぞ)

?iki ne: hara ja tumira ra n (行けばからは止められない。行くとなると止

められない)

2) 副助詞 niga: (など) に接する。

haki ne: niga: nara n jo: (書いた
りするといけないよ)

?iki ne: niga: nara n (行ったりなど
するといけない)

3) 係助詞に接する。

haki ne: ja nara n (書いてはいけな
い)

haki ne: n nara n (書いてもいけな
い)

haki ne: ru nairu (書かないといけな
い)

haki ne: ga naira (書かないといけな
いかしら)

7. 3 figa (のに, けれども)

既定の逆接条件を示す。

【うける形式】

活用語の準体形をうける。

haku figa wakara n (書くけれどもわ
からない)

takafe: figa turuka n (高いけれども
届かない)

haka su figa haki ju:sa n (書かす
けれども書けない)

jumi bufe: figa jumi ju:sa n
(読みたいけれども読めない)

【接する形式】

係助詞 ru (ぞ) に接する。

jumi ja jumu figa ru wakara n
(読みは読むけれどもわからない)

mi: figa ru wakara n sa (見るけれ
どもわからないのだ)

7. 4 munnu (ものを, のに)

既定の逆接条件を表わす。figa (けれども)
と比較して, 多少帰結部分に対して批評的態度:
がこめられる。

【うける形式】

活用語の連体形をうける。

hakun munnu haka n ri ?jun (書く
のに書かないという)

takafen munnu takaku ne:n ri
?jun (高いのに高くないという)

haka sun munnu haka sa n ri
?jun na: (書かせるのに書かないという)

haki bufen munnu haka n na: (書
きたいのに書かないのか)

【接する形式】

他の助詞には接しえない。

7. 5 gutui (のに)

既定の逆接条件を表わす。「現に~するのに」
という意がこめられている。

【うける形式】

活用語の準体形をうける。

haku: gutui haka n ri ?jun (書く
のに書かないという)

takafe: gutui takaku ne:n ri
?jun (高いのに高くないという)

?ika su gutui ?ika sa n ri
?jun (行かせるのに行かせないという)

?iki bufe: gutui ?iki buku ne:n
ri ?jun (行きたいのに行きたくないという)

【接する形式】

他の助詞には接しえない。

7. 6 tu (から, ので)

ある事柄が原因・理由・きっかけとなり, そ

の結果他の事柄が成立するという関係を表わす。

【うける形式】

活用語の準体形につく。

?ari: ga haku: tu wan ja haka n
(彼が書くから私は書かない)

?ama ja takafe: tu ho:ra n (あそこは高いから買わない)

?ari ne: haka su tu ?ja: ja si-mun
(彼に書かせるから君はよい)

?uri: ja jumi bufe: tu ho:jun
(これは読みたいから買う)

【接する形式】

1) 副助詞 niga: (など, なんぞ) に接する。

ra: gara nu waffe: tu niga: ru

?ika n te: (どこかが悪いからなんぞ行かないんでしょう)

?ama ?gati ?ika n si ja ?adgi-kafe: tu niga: jara n gaja: (あそこへ行かないのは恥しいからなどではなからうか)

2) 係助詞に接する。

nimba n si ja ra: gara jamu: tu ja jara n gaja: (寝ないのはどこか痛むからではなからうか)

nama mari ninti: si ja ra: gara jamu: tu ru je:ru (今まで寝ているのはどこか痛むからなのだ)

ra: gara jamu: tu ga je:ra ja: (どこか痛むからであろうか)

7. 7 gafina:, ganna: (ながら)

二つの動作・状態が共存する関係にあることを表わす。gafina: と ganna: は全く同じように用いられる。

【うける形式】

活用語の連用形に接する。

haki gafina: jumun (書きながら読む)

takafe: gafina: ?ikufen ri ?jun
(高いながら低いという。高いのに低いという)

juma si gafina: nimbun (読ませながら眠る)

haki bufe: gafina: haka n (書きたいながら書かない)

【接する形式】

1) 並列助詞に接する。

?iki gafina: tu ke: gafina: juin
(行きながらと帰りながらよる)

?iki gafina: nuja ke: gafina: nu-ja juin (行きながらやら帰りながらやらによる)

?iki gafina: ka ke: gafina: ne: juin (行きながらか帰りながらによる)

?iki gafina: jara ke: gafina: ne: juin (行きながらやら帰りながらによる)

?iki gafina: tyka ke: gafina: ne: juin (行きながらとか帰りながらによる)

2) 格助詞に接する。

?iki gafina: ne: ?it?yuku sa (行きながらに言うておくよ)

?iki gafina: hara jamutan (行きながらから痛かった)

?iki gafina: jo:kan ki: gafina: ja mafi (行きながらより来ながらはよい)

?iki gafina: ne: ti mit?yukun (行きながらで見えておく)

?iki gafina: ri ?jun (行きながらという)

3) 副助詞に接する。

?iki gafina: bake: ne: juin (行きながらばかりによる)

?iki gafina: mari: ke:n (行きながら
まで食べる)

?iki gafina: niga: muttjiku:n (行き
ながらなどに持ってくるよ)

?iki gafina: nre: jure: (行きながら
でもよりなさい)

?iki gafina: kure: jure: (行きなが
らにでもよりなさい)

?iki gafina: ?atai jure: Jimun (行
きながらぐらいによればよい)

?iki gafina: tjun jura n (行きなが
らさえよらない)

ke: gafina: jatin jure: (帰りなが
らでもよりなさい)

4) 係助詞に接する。

haki gafna: ja jumi ju:sa n (書
きながら読むことはできない)

haki gafna: n jumun (書きながら
読む)

haki gafna: run jumi ne: ju: wa-
kain (書きながらなんぞ読むとよくわかる)

haki gafna: ru jumu:ru (書きながら読
むのだ)

haki gafna: ga jumu:ra (書きながら
読むのかしら)

7, 8 saku:ja (のなら)

仮定条件を表わす。

【うける形式】

活用語の連体形をうける。

hakun saku:ja he:ku hake: (書くの
なら早く書け)

takafen saku:ja nubui na jo: (高
いのなら登るなよ)

haka sun saku:ja he:ku haka se:

(書かすのであれば早く書かせなさい)

haki bufen saku:ja he:ku hake:

(書きたいのなら早く書け)

【接する形式】

他の助詞には接しえない。

7, 9 te:kan, te:n, tin (ても)

既定の逆接条件を表わす。te:kan, te:n,
tinは、語形はそれぞれ異なっても、全く同じ
ように用いられる。以下、te:kanで用例を
示す。

【うける形式】

過去の終止形をうける。

?idzan te:kan wura n (行ってもいな
い)

mitjan te:kan wakara n (見てもわか
らない)

haka tjan te:kan jumi ju:sa n
(書かせても読むことができない)

【接する形式】

他の助詞には接しえない。

8, 終助詞

終助詞は文末にあって完結作用を表わす。完
結作用とは、文を文たらしめるもので、表現内
容と話手との関係づけをするものである。

8, 1 ba:(わけ)

表現内容を当然のこととして聞手へ訴える意
を表わす。

【うける形式】

1) 動詞および動詞型助動詞の終止形、du係
結形をうける。

?ari: ga ?ikun ba: (彼が行くわけだ)

?ari: ga ru ?iku:ru ba: (彼が行く

わけなんだ)

?uttu ne: haka sun ba: (弟に書かせるわけだ)

?uttu ne: ru haka suru ba: (弟に書かせるわけなのだ)

2) 形容詞および形容詞型助動詞の終止形, du 係結形をうける。

?uri: ja takafen ba: (これは高いのだよ)

?uri: ga ru takafe:ru ba: (これが高いのだよ)

?ari: ga ?iki bufen ba: (彼が行きたいわけだ)

?ari: ga ru ?iki bufe:ru ba: (彼が行きたいわけだよ)

【接する形式】

終助詞 ga (か, 疑問), na (か, 疑問), ro: (ぞ, よ), jo: (よ), te: (よ, ね), sa (さ, よ, ね), ja: (よ, ね), ɕa: (目下への呼びかけ), sai (目上への呼びかけ) に接する。

taru: ga ?ikun ba: ga (誰が行くのかね)

?ari: ga ?ikun ba: na: (彼が行くわけか)

?ari: ga ?ikun ba: ro: (彼が行くわけだぞ)

?ari: ga ?ikun ba: jo: (彼が行くわけよ)

?ari: ga tuin ba: te: (彼が取るわけよ)

?ari: ga tuin ba: sa (彼が取るわけさ)

?ari: ga tuin ba: ja: (彼が取るわけよね)

wan ga hakun ba: ɕa: (私が書くわけさ)

nan ga mo: jun ba: sai (あなたがいらっしゃるわけです)

8, 2 figa (のに)

接続助詞 figa (けれども, のに) が終助詞化したものである。「~なのに~する」という意を表わし, 希望や期待に反することが起こっていることに対して不満の気持をこめる場合に用いる。転じて, 「~のはずだから~でなくてよい」の意を表わす場合もある。

【うける形式】

1) 動詞および動詞型助動詞の準体形をうける。

?ari: ga haku figa (彼が書くはずだよ)

?ari: ga haka su figa (彼が書かせるはずだよ)

2) 形容詞および形容詞型助動詞の準体形をうける。

?uri: ja takafe: figa (これは高いはずだよ)

?ari: ga ?iki bufe: figa (彼が行きたいはずだよ)

【接する形式】

終助詞 na: (か, 疑問), ro: (ぞ, よ), jo: (よ), te: (よ, ね), ja: (よ, ね), ɕa: (目下への呼びかけ), sai (目上への呼びかけ) に接する。

?ami: nu ɕui figa na: (雨が降るのにか)

?ami: nu ɕui figa ro: (雨が降るのにだぞ)

?uja: nu wui figa jo: (親がいるのだがね)

?uja: nu wui figa te: (親がいるけれどもね)

nama ku: figa ja: (今来るのにね)

nama ku: figa ça: (今来るのにさ)

nama ku: figa sai (今来ますよ)

8, 3 mu (ものを)

表現内容に対して「～するものを」という詠嘆的な感情を表わす場合に用いる。

【うける形式】

1) 動詞および動詞型助動詞の準体形をうける。

?ari: ga jumu: mu (彼が読むものを)

?uttu ne: juma su: mu (弟に読ませるものを)

2) 形容詞および形容詞型助動詞の準体形をうける。

?ari: ja wakafe: mu (彼は若いんだもの)

?ama ɔgati ?iki bufe: mu (あそこへ行きたいんだもの)

【接する形式】

終助詞 na:(か, 疑問), ro:(ぞ, よ), jo:(よ), te:(よ, ね), sa(さ, よ, ね), ja:(よ, ね), ça:(目下への呼びかけ), sai(目上への呼びかけ)に接する。

kusa: hai mu na: (草を刈るのにか)

kusa: hai mu ro: (草を刈るものをだぞ)

kusa: hai mu jo (草を刈るものをだよ)

?ami: ɔui mu te: (雨が降るものをね)

nama ku: mu sa (今来るものをさ)

nama ku: mu ja: (今来るものをね)

nama ku: mu ça: (今来るものをさ)

nama ku: mu sai (今来ますもの)

8, 4 na (な)

禁止する意を表わす。

【うける形式】

動詞および動詞型助動詞の準体形をうける。

dzi: haku na jo: (字を書くなよ)

kusa: tui na jo: (草を取るなよ)

dzi: haka su na jo: (字を書かせるなよ)

【接する形式】

終助詞の ro:(ぞ, よ), jo:(よ), sa(さ, よ, ね), ça:(目下への呼びかけ), sai(目上への呼びかけ)などに接する。

kusa: tui na ro: (草を取るなよ)

dzi: haku na jo: (字を書くなよ)

?ama ɔgati ?iku: na sa (そんならあそこへ行くな)

mane: haku: na ça: (ここに書くなよ)

na: mo:ju na sai (もういらっしやるなよ)

8, 5 ga (か)

疑問を表わす。

【うける形式】

1) 動詞および動詞型助動詞の準体形をうける。

tan ga haku: ga (誰が書くか)

taru ne: haka su ga (誰に書かせるか)

2) 形容詞および形容詞型助動詞の準体形をうける。

nu: nu takafe: ga (なにが高いのか)

nu: ke: bufe: ga (なにが食べたいのか)

【接する形式】

終助詞 jo:(よ), te:(よ, ね), sa(さ, よ, ね), ja:(よ, ね), ça:(目下への呼びかけ), sai(目上への呼びかけ)に接する。

taru: ga ?iku: ga jo:(誰が行くかよ)
 taru: ga ?iku: ga te:(誰が行くかね)
 nu: haku: ga sa (なにを書くのかね)
 nu: haku: ga ja: (なにを書くのかね)
 nu: mi: ga ça: (なにを見るのかね)
 nu: mi: ga sai (なにを見ますか)

8, 6 gaja:(かしら)

詠嘆的に疑問を表わす。

【うける形式】

1) 動詞および動詞型助動詞の準体形をうける。
 ?ari: ga haku: gaja: (彼が書くかしら)
 ?uttu ne: haka su gaja: (弟に書かせるかしら)

2) 形容詞および形容詞型助動詞の準体形をうける。
 ?ama ja φukafe: gaja: (あそこは深いかしら)
 nama φataraki bufe: gaja: (今働きたいかしら)

【接する形式】

終助詞 te:(よ, ね), sa(さ, よ, ね),
 ça:(目下への呼びかけ), sai(目上への呼びかけ)に接する。

tatji su: gaja: te:(どうするかしらね)
 tatji su: gaja: sa:(どうするかしらね)
 nu: su: gaja: ça: (なにをするかしらね)
 nu: su: gaja: sai (なにをしましょうかしらね)

8, 7 ban (～だね, ～だよ, ～だよね)

事柄をたしかにそうだと認める意を表わす。

【うける形式】

1) 動詞および動詞型助動詞の準体形をうける。

midgi ja numu ban (水は飲むんだね)
 ?uttu ja ?ika su ban (弟は行かせるよ)

2) 形容詞および形容詞型助動詞の準体形をうける。

?ari: ja takafe: ban (あれは高いんだね)

tan jatin mi: bufe: ban (誰でも見たいよ)

【接する形式】

終助詞 na:(か, 疑問), ja:(よ, ね),
 ça:(目下への呼びかけ), sai(目上への呼びかけ)に接する。

?ari: ga ?iku ban na:(彼が行くのだね。そうでしょう?)
 ?ari: ga ?iku ban ja:(彼が行くよね)
 figu:tu su: ban ça: (仕事をしますね)
 ?uttu nu wui ban sai(弟がいますよ)

8, 8 mi (か)

相手に尋ね問う意を表わす。

【うける形式】

1) 動詞および動詞型助動詞の準体形をうける。
 tiga:mi haku mi (手紙を書くか)
 tiga:mi haka su mi (手紙を書かせるのか)

2) 形容詞および形容詞型助動詞の準体形をうける。

?ama: ja nukufe: mi (あそこは暖いか)
 ?ami: φui gife: mi (雨が降りそうか)

【接する形式】

終助詞 sa(さ, よ, ね), ja:(よ, ね),
 ça:(目下への呼びかけ), sai(目上への呼びかけ)などに接する。

?ja: ga haku: mi sa (君が書くかね)

?ja: haku: mi ja:(君が書くかね)
 ?ari: ga su: mi ça:(あれがするもの
 か)
 nan ga mo:ju mi sai(あなたがいら
 っしゃいますか)

8, 9 ti:(～していたか)

相手に尋ね問う。主に現時点より以前におけ
 る動作・状態について尋ね問う意を表わす。

【うける形式】

1) 動詞および動詞型助動詞の準体形をうける。
 tiga:mi haku: ti:(手紙を書いていた
 か)

?uttu ne: ru haka su ti:(弟に書
 かせていたか)

2) 形容詞および形容詞型助動詞の準体形をう
 ける。

?ama: ja ?atjife: ti:(あそこは暑か
 ったか)

nama ki: gife: ti:(すぐ来そうであ
 ったか)

【接する形式】

終助詞 sa(さ, よ, ね), sai(目上への
 呼びかけ)などに接する。

?ja: wakai ti: sa(君を知っていたか
 ね)

nan wakai bi: ti: sa(あなたを知っ
 ていましたか)

8, 10 sami(かね)

念を押すかたちで相手に尋ね問う。

【うける形式】

1) 動詞および動詞型助動詞の準体形をうける。

?ja: ga jumu: sami(君が読むかね)

?ja: ga juma su sami(君が読ませる

かね)

2) 形容詞および形容詞型助動詞の準体形をう
 ける。

?unu midzi: ja tfurafe: sami(この
 水はきれいかね)

dzi: haki gife: sami(字を書きそうか
 ね)

【接する形式】

終助詞 sa(さ, よ, ね), ja:(よ, ね),
 sai(目上へのよびかけ)などに接する。

?ja: ga jumu: sami sa(君が読むか
 ね)

?ari: ga ?iku: sami ja:(彼が行く
 だろうね)

naθ ga jumi nfe: sami sai(あな
 たがお読みになりますかね)

8, 11 fe:(～でしょう)

「～だから～でしょう」という当然の帰結を
 示し、聞手にも強く訴える意を表わす。

【うける形式】

1) 動詞および動詞型助動詞の準体形をうける。

ra: ?ari: ga ?iku fe:(ほら、彼がい
 くでしょう)

ra: ?uttu ?ika su fe:(ほら、弟を行
 かせるとしよう)

2) 形容詞および形容詞型助動詞の準体形をう
 ける。

mitji n takafe: fe:(見ても高いでしょ
 う)

?ai ?i: ba maffe: fe:(こういうとう
 まくいくでしょう)

miri: ba jumi bufe: fe:(見れば読
 みたいでしょう)

【接する形式】

終助詞 sa (さ, よ, ね), ja:(よ, ね),
ça:(目下への呼びかけ), sai(目上への呼
びかけ)などに接する。

miri: ba wakai fe: sa (見ればわか
るでしょうよ)

haki: ba wakai fe: ja:(書けばわか
るでしょうね)

jumi: ba wakai fe: ça:(読めばわか
るでしょうが)

?i: ba su: fe: sai (言えばしますか
らね)

8, 12 ji:(ね)

相手の同意を求める意を表わす。

【うける形式】

動詞および動詞型助動詞の志向形をうける。

dʒi: haka: ji: (字を書こうね)

kɥsa: tura ji: (草を取ろうね)

dʒi: haka sa ji: (字を書かそうね)

【接する形式】

終助詞 sa (さ, よ, ね), sai (目上への
呼びかけ)などに接する。

dʒi: haka: ji: sa (字を書こうね)

na: ?ika ji: sa (もう行こうね)

midʒi numa: ji: sai (水を飲みまし
ょうね)

8, 13 i, ni (か)

尋ね問う意を表わす。うける形式の末尾がn
である場合はniとなり, それ以外の場合はi
となる。

【うける形式】

1) 動詞および動詞型助動詞の接続形をうける。

dʒi: hatʃi i (字を書いたか)

tiga:mi haka tʃi i (手紙を書かせたか)

2) 否定の助動詞をうける。

mire: sa n ni (見るんじゃないか)

mafi ja ?ara n ni (よいではないか)

【接する形式】

終助詞 sa (さ, よ, ね), ja:(よ, ね),
sai (目上への呼びかけ)などに接する。

?ama ne: ?are: sa n ni sa (あそこ
にあるんじゃないかね)

?anta: ne: wure: sa n ni ja: (あ
れたちのところにいるんじゃないかね)

saki ja nume: sa n ni sai (酒は
飲むのではないですか)

8, 14 ro:(ぞ, よ)

強調する意を表わす。

【うける形式】

1) 動詞および動詞型助動詞の終止形, 命令形
をうける。

dʒi: hakun ro: (字を書くぞ)

dʒi: haki ro: (字を書けよ)

?uttu φataraka sun ro: (弟を働かせ
るぞ)

nama φataraka ʃi ro: (今働かしなさ
いよ)

2) 形容詞および形容詞型助動詞の終止形をう
ける。

?uri: ja takafen ro: (これは高いぞ)

?ami: φui gifen ro: (雨が降りそうだ
ぞ)

3) 体言をうける。

ma: ro: (馬だぞ)

kuru:ma ro: (車だぞ)

4) 種々の助詞をうける。

準体助詞 ʃi (の)をうける。

?uri: ja haku: ʃi ro: (これは書くも

のだぞ)

?uri: ja muttʃi?iku: si ro: (これは
持っていくものだぞ)

並列助詞をうける。

naŋgi su: si ja ?ja: tu wan tu
ro (難儀するのは君とぼくとだぞ)

so:ti?iku si ja ?uttu ka siɖʒa
ka ro: (つれていくのは弟か兄かだぞ)

nama hara ?agai si ja saki tyka
taba:ku tyka ro: (これから値上りする
のは酒とか煙草とかだぞ)

格助詞をうける。

nuŋkui ?ju: si ja ?ari: ga ro:
(いろいろいうのは彼がだぞ)

?ai su: si ja tui nu ro: (こうす
るのは鶏がだぞ)

?ju: si ja ?uja ne: ro: (言うのは
親にだぞ)

nama ja haki: ga ro: (今は書きにだ
ぞ)

hatami: si ja ?ja: tu ro: (かつぐ
のは君とだぞ)

?uri: ja ?uja ŋgati ro: (これは親
へだぞ)

?uri: ja kwa: hara ro: (これは子供
からだぞ)

?amasu si ja ?uttu jo:kan ro:
(暴れるのは弟よりだぞ)

?afibu si ja ɸa: ne:ti ro:(遊ぶの
は外でだぞ)

?ikun ri ro: (行くということだぞ)

副助詞をうける。

numu si ja midʒi bake: ro: (飲む
のは水ばかりだぞ)

jubu: si ja ?ari mari: ro:(呼ぶの

はあれまでだぞ)

ɸagu: si ja ti:ɸi na: ro: (配るの
は一つずつだぞ)

【接する形式】

終助詞 sa (さ, よ, ね), ja:(よ, ね),
ɸa:(目下への呼びかけ), sai (目上への呼
びかけ)などに接する。

dʒi: hakun ro: sa (字を書くぞ)

dʒi: hakun ro: ja:(字を書くぞ)

na: ?ikun ro: ɸa:(もう行くぞ)

na: ?ikun ro: sai(もう行きますぞ)

8, 15 jo:(よ, ね)

表現内容を聞手へやわらかい調子で伝えたり,
訴えたりする意を表わす。

【うける形式】

1) 動詞および動詞型助動詞の終止形, 命令形,
志向形をうける。

dʒi: hakun jo: (字を書くよ)

dʒi: haki jo: (字を書けよ)

nama haka: jo: (今書こうよ)

ma: ŋgati ka: sun jo: (ここへ来さ
せるよ)

ma: ŋgati ka: si jo: (ここへ来させ
なさい)

ma: ŋgati ka: sa jo: (ここへ来させ
ようよ)

2) 形容詞および形容詞型助動詞の終止形をう
ける。

?uri: ja takafen jo: (これは高い
よ)

?ari: ga haki busen jo: (彼が書き
たいよ)

3) 体言をうける。

?uri: ja ?uttu jo: (これは弟だ

よ)

?ari: ja watta: sima: jo:(あれは私たちの島だよ)

4) 種々の助詞をうける。

準体助詞をうける。

?uri: ja muttji?iku: si jo:(これは持っていくものだよ)

nu: gara jo:(なにかだよ)

並列助詞をうける。

?iku: si ja ?ari tu wan tu jo:
(行くのはあれと私とだよ)

ke: si ja ma: nuja ?ufi nuja jo:
(食うのは馬やら牛やらがだよ)

?ui si ja mugi: ka ?awa: ka jo:
(植えるのは麦か粟かだよ)

watasu si ja tju: jara ni: jara
jo:(渡すのは人やら荷やらだよ)

?atjimai si ja ?uja tuka tjo:re:
tuka jo:(集まるのは親とか兄弟とかだよ)

格助詞をうける。

?ari: ga jo:(彼がだよ)

tui nu jo:(鶏がだよ)

?uja ne: jo:(親にだよ)

haki: ga jo:(書きにだよ)

?uja tu jo:(親とだよ)

tugutji ōgati jo:(渡久地へだよ)

φaru hara jo:(畑からだよ)

ma: jo:kan jo:(ここよりだよ)

ti: si jo:(手でだよ)

φama ne:ti jo:(浜でだよ)

?ikun ri jo:(行くということだよ)

副助詞をうける。

midzi bake: jo:(水ばかりだよ)

nagu mari: jo:(名護までだよ)

midzi niga: jo:(水などだよ)

saki nre: jo:(酒などだよ)

?an kure: jo:(あのぐらだよ)

?an ?atai jo:(あのぐらだよ)

ti:tji na: jo:(一つずつだよ)

ti:tji ntja: jo:(一つだけだよ)

5) 次のように間投助詞的に用いられる。

副助詞をうける。

haku: ka jo: ka: ntan (書くまでね来なかった)

?uttu tjun jo: so:ti?ikan (弟さえねつれていかない)

tunai jatin jo: ?ika n (隣でもね行かない)

係助詞をうける。

?ari: ja jo: nokoi sa (あれはね残るよ)

?ari: n jo: ?iku: sa (あれもね行くよ)

?ari run jo: ?utjuki ne: simuta:
mu (彼なんぞねおいておけばよかったのだが)

wugi: ru jo: ?uiru (砂糖きびをね植えるのだ)

tui ga ga jo: ke:ra (鶏がね食うのかしら)
接続助詞をうける。

haki: ba jo: maffe: siga (書けばねいいのだが)

haki ne: jo: nara n siga (書くとなねいけないが)

haku siga jo: haka n ri ?jun (書くのにな書かないという)

haku: munnu jo: haka n ri ?jun
(書くのにな書かないという)

?iku gutui jo: ?ika n ri ?jun
(行くのにな行かないという)

?ari: ga haku: tu jo: ?ja: ja si-

mu: sa (あれが書くからね君はいいよ)
 ?iki gafina: jo: juin (行きながらね
 よる)

?ikun saku:ja jo: he:ku ?ike:(行
 くのならね早く行きなさい)

mitʃan te:kan jo: wakara n (見て
 もねわからない)

【接する形式】

終助詞 sa (さ, よ, ね), ja:(よ, ね),
 ʃa: (目下への呼びかけ), sai(目上への
 呼びかけ)などに接する。

he:ku ?iki jo: sa (早く行けよね)
 ?ari: ga ?ikun jo: ja: (あれが行く
 よね)

mandʒi haka: jo: ʃa: (一緒に書こうよ
 ね)

?ari: ga hakun jo: sai (彼が書きま
 すよ)

8, 16 te:(よ, ね)

「~にちがいないよ。きっと~だよ」などの
 意も表わし, ある事柄を確定的なこととして推
 定し, 詠嘆的に聞手へ訴えるはたらきがある。

【うける形式】

1) 動詞および動詞型助動詞の終止形をうける。

?ari: ga hakun te:(あれが書くよ)
 ?uttu ne: haka sun te:(弟に書かせ
 るよ)

2) 形容詞および形容詞型助動詞の終止形をう
 ける。

?ari: ja takafen te:(あれは高いよ)
 ?ari: ga ?iki buʃen te:(彼が行きた
 いよ)

3) 体言をうける。

tamun te: (薪だよ)

watta: te: (私達だよ)

4) 種々の助詞をうける。

準体助詞をうける。

haku: ʃi te: (書くものだよ)

nu: gara te: (なにかだよ)

並列助詞をうける。

kwa: tu ma:ga tu te:(子と孫とだよ)

?ari nuja ʃuri nuja te:(あれやら
 これやらだよ)

?ari: ka ʃuri: ka te:(あれかこれか
 だよ)

nu: jara ʃui jara te:(なにやらこ
 えやらだよ)

?ja: tuka wan tuka te:(君とかぼく
 とかだよ)

格助詞をうける。

?ari: ga te:(あれがだよ)

tui nu te:(鶏がだよ)

?uja ne: te:(親にだよ)

haki: ga te:(書きにだよ)

?uja tu te:(親とだよ)

nagu ŋgati te:(名護へだよ)

tugutʃi hara te:(渡久地からだよ)

?ari jo:kan te:(彼よりかだ)

kumi: ʃi te:(米でだよ)

ʃama ne:ti te:(浜でだよ)

ʃaʃarakun ri te:(働くということだよ)

副助詞をうける。

midʒi bake: te:(水ばかりだよ)

nagu mari: te:(名護までだよ)

saki niga: te:(酒などだよ)

tabaku nre: te:(煙草などだよ)

?an kure: te:(あのぐらだよ)

?an ?atai te:(あのぐらだよ)

ti:ʃi na: te:(一つずつだよ)

?uppi ntʃa: te: (これぼっちだよ)

haku: ka te: (書くまでだよ)

?uja tʃun te: (親さだよ)

tʃo:re: jatin te: (兄弟でもだよ)

5) 次のように係助詞、接続助詞をうけて、間投助詞的に用いられる。

係助詞をうける。

?ja: ja te: wutuke: (君はね居ておきなさい)

ɸaru ʊgati n te: ?ika n sa (畑へも行かないよ)

?ari: ga run te: nai ne: ʃimu ʃiga (あれがでもねできるといいのだが)

接続助詞をうける。

haki ba te: mi:n jo: (書けばね見るよ)

haki ne: te: ʃimu ʃiga (書くとないいのだが)

haku ʃiga te: wakara n (書くけれどもねわからない)

haku: munnu te: haka n ri ?jun (書くものをね書かないという)

haku: gutui te: haka n ri ?jun (書くのにな書かないという)

haku: tu te: matʃuke: (書くからね待っていて)

haki gafina: te: nakun (書きながね泣く)

hakun saku: ja te: he:ku hake: (書くのならね早く書け)

hatʃan te:kan te: wakara n (書いてもねわからない)

【接する形式】

終助詞 sa (さ, よ, ね), ja: (よ, ね), ɸa: (目下への呼びかけ), sai (目上への呼

びかけ)などに接する。

?ari: ga ?ikun te: sa (あれが行くにちがいないよ)

?ari: ga hakun te: ja: (あれが書くにちがいないよ)

?ami: nu ɸuin te: ɸa: (雨が降るにちがいないよ)

midʒi numun te: sai (水を飲むにちがいないよ)

8, 17 na: (か)

やわらかく尋ね問う意を表わす。

【うける形式】

1) 動詞および動詞型助動詞の終止形をうける。

?ja: ga ?ikun na: (君が行くか)

?ja: ga ?ika sun na (君が行かせるか)

2) 形容詞および形容詞型助動詞の終止形をうける。

?uri: ja takafen na: (これは高いか)

?ja: ga ?iki bufen na: (君が行きたいか)

3) 体言をうける。

?ari: ja dʒinan na (あれは次男か)

?iku: ʃi ja ?ja: na (行くのは君か)

4) 種々の助詞をうける。

準体助詞をうける。

?uri: ja haku: ʃi na (これは書くものか)

?utʃuku ʃi ja takafe: ʃi na (おいておくのは高いものか)

並列助詞をうける。

kwai tu hama: tu na: (鍬と鎌とか)

ma: nuja ?uʃi nuja na: (馬やら牛やらか)

?uttu ka fidga ka na: (弟か兄かなのか)

kwa: jara ma:ga jara na: (子やら孫やらか)

mugi: tuka ?awa: tuka na: (麦とか粟とかなのか)

格助詞をうける。

?ari: ga na: (彼がか)

tui nu na: (鳥がか)

?uja ne: na: (親にか)

haki: ga na: (書きにか)

?uja tu na: (親とか)

nagu dgati na: (名護へか)

tugutji hara na: (渡久地からか)

tugutji jo:kan na: (渡久地よりなのか)

kumi: fi na: (米でか)

φama ne:ti na: (浜でか)

hakun ri na: (書くということか)

副助詞をうける。

?uja bake: na: (親ばかりか)

?ari mari: na: (彼までもか)

saki niga: na: (酒などをか)

tabaku nre: na: (煙草などをか)

?an kure: na: (あのぐらいか)

?an ?atai na: (あのぐらいか)

ti:tji na: na: (一つずつか)

?uppi ntfa: na: (これぼっちか)

ke:ru ka na: (帰るまでなのか)

midgi tfun na: (水さえもか)

midgi jatin na: (水でもか)

係助詞 n (も) をうける。

?ari: n na: (あれもか)

接続助詞をうける。

haki: ba na: (書けばなのか)

haki ne: na: (書くとなのか)

haku figa na: (書くけれどもなのか)

haku: munnu na: (書くのにか)

haku: gutui na: (書くのにか)

haku: tu na: (書くからか)

haki gafina: na: (書きながらか)

hatfan te:kan na: (書いてもなのか)

【接する形式】

終助詞 sa (さ, よ, ね), φa: (目下への呼びかけ), sai (目上への呼びかけ) に接する。

?ja: ga ?ikun na: sa (君が行くかね)

?ari: ga ?ikun na: φa: (彼が行くものか)

?ari: ga ?ikun na: sai (彼が行きますか)

8, 18 sa (さ, よ, ね)

断定する意を表わす。また, 聞手への呼びかけも表わす。

【うける形式】

1) 動詞および動詞型助動詞の志向形, 命令形, 準体形をうける。

mandgi haka: sa (一緒に書こうよ)

he:ku hake: sa (早く書けよ)

?ari: ga haku: sa (あれが書くさ)

mandgi juma: sa sa (一緒に読まそう)

he:ku jama fe: sa (早く読ませなさい)

nama juma su sa (今読ませるよ)

2) 形容詞および形容詞型助動詞の準体形をうける。

?uri: ja takafe: sa (これは高いよ)

?ari: ga jumi bufe: sa (彼が読みたいよ)

3) 体言をうける。

?uri hama sa (はい, 鎌だよ)

ʔuri ɸai sa (はい、針だよ)

4) 種々の助詞をうける。間投助詞的用法である。
準体助詞をうける。

haku: ʃi sa muttʃiʔike: (書くのさ持
っていけ)

nu: gara sa muttʃiʔike: (なにかをさ
持っていけ)

並列助詞をうける。

ʔja: tu wan tu sa ʔika n ne:
nara n (君と私とさ行かなければならない)

ma: nuja ʔuʃi nuja sa manri:n
(馬やら牛やらさ多い)

ʔja: ka wan ka sa ʔika n ne:
nara n (君か私かさ行かなければならない)

kwa: jara ma'ga jara sa manri:n
(子供やら孫やらさ多い)

ti: tʃka ɸisa tʃka sa ʔarare:
(手とか足とかさ洗いなさい)

格助詞をうける。

wan ga sa haku: sa (私がね書くさ)

ma: nu sa ke: su:ru (馬がさ食うよ)

ʔuja ne: sa ʔjun jo: (親にさ言うよ)

haki: ga sa ʔikun jo: (書きにさ行
くよ)

ʃidʒa tu sa ʔikun jo: (兄とさ行く
よ)

ɸaru ɸgati sa ʔikun jo: (畑へさ行
くよ)

ɸaru hara sa ke:tikun jo: (畑から
さ帰ってくるよ)

ʔuttu jo:kan sa takafe:n (弟よりか
さ高い)

kumi: ʃi sa sukoju ʃe: (米でさ作る
よ)

tunai ne:ti sa ʔaʃibun jo: (隣で

さ遊ぶよ)

ʔikun ri sa ʔi: su:ru (行くとさ言
うでしょう)

副助詞をうける。

midʒi bake: sa numa ra n (水ばか
りさ飲めない)

ʔari mari sa so:tiʔike: (彼までさ
つれていけ)

ʔo:ɸa niga: sa ʔuire: (野菜などさ植
えなさい)

saki nre: sa ho:tiko: (酒などでも買
ってこい)

ʔan kure: sa nai su:ru (あのぐらい
はできる)

ʔan ʔatai sa sa n ne: nara n
(あのぐらいはしないといけない)

ta:tʃi na: sa ki:re: (二つずつさあげ
なさい)

ʔuppi ntʃa: sa tura sa ra n (こ
れっぽっちはあげられない)

haku: ka sa ka: ntan (書くまでね来
なかった)

tʃira tʃun sa miʃi ra n (顔さえね
見せない)

ʔuja jatin sa wakara n (親でもね
わからなかった)

係助詞をうける。

ʔja: ja sa wutuke: (君はね居てお
け)

ʔuri: n sa muttʃiʔike: (これもね持っ
ていけ)

ʔuri run sa ʔai ne: ʃimun (これさ
えねあればよい)

ti: ru sa jamatʃe: ru (手をね痛めた
のだ)

ti: ga sa jamatfara (手をね痛めたのかしら)

接続助詞をうける。

haki: ba sa wakajun (書けばねわかる)

haki ne: sa wakajun (書くとねわかる)

haku figa sa wakara n (書くけれどわからない)

haku: munnu sa ?atfjikajun na (書くものをね叱るのか)

haku gutui sa ?atfjikara Øke: (書くのになね叱るな)

haku: tu sa fimu: sa (書くからねいいさ)

haki gafina: sa jume: (書きながらね読みなさい)

hakun saku: ja juma Øke: (書くのならね読むなよ)

hatfan te:kan sa wakara n (書いてもねわからない)

【接する形式】

終助詞 sa (さ, よ, ね), ja: (ね, よ), ça: (目下への呼びかけ), sai (目上への呼びかけ) に接する。

?ari: ga haku: sa sa (あれが書くよね)

ku: ja φari: sa ja: (今日は晴れるよね)

?ari: ga ?iku: sa ça: (彼が行くよね)

wan ga wui sa sai: (私がいますよ)

8, 19 je: (ね, よ)

聞手への呼びかけを表わす。

【うける形式】

1) 動詞および動詞型助動詞の志向形, 命令形,

終止形, du係結形, ga係結形などをうける。

dʒi: haka: ja: (字を書こうね)

dʒi: hake: ja: (字を書けよ)

?ari: ga hakun ja: (あれが書くね)

dʒi: ru haku: ru ja: (字を書くのだね)

dʒi: ga haku: ra ja: (字を書くのかしらね)

?uttu ne: haka sa ja: (弟に書かせるね)

?uttu ne: haka se: ja: (弟に書かせなさいね)

?ari: ga haka sun ja: (彼が書かせるね)

dʒi: ru haka suru ja: (字を書かせるのだね)

dʒi: ga haka sura ja: (字を書かせるのかしら)

2) 形容詞および形容詞型助動詞の終止形, du係結形, ga係結形, 理由形などをうける。

?ari: ja tfurafen ja: (あれはきれいだね)

?uri: ga ru tfurafe: ru ja: (これがきれいだよ)

nu: ga ga tfurafe: ra ja: (なにがきれいだろうかしらね)

?uri: ja takasanu ja: (これは高くてね)

taba: ku φuki bufen ja: (煙草を吸いたいね)

taba: ku ru φuki bufe: ru ja: (煙草を吸いたいのだね)

taba: ku ga φuki bufe: ra ja: (煙草を吸いたいのかしら)

taba: ku φuki busanu ja: (煙草が吸いたくてね)

3) 体言をうける。

?ukusu si ja ?ja: ja: (起こすのは君ね)

?ui si ja ?umu: ja: (植えるのは芋よね)

4) 種々の助詞をうける。間投助詞的用法である。

準体助詞をうける。

?uri: ja si kai si ja: (これは使うものね)

?atjikara ri: si ja ta: gara ja: (叱られるのは誰かだね)

並列助詞をうける。

?ari: tu ?uri: tu ja: muttji?ike: (あれとこれとね持っていきなさい)

?ari nuja ?uri nuja ja: ?i:kan-fin (あれやらこれやらね言いたてる)

?ari: ka ?uri: ka ja: so:ti?ike: (あれかこれかねつれていきなさい)

?ari jara ?uri jara ja: manri:n (あれやらこれやらねたくさんある)

?ari tyka ?uri tyka ja: ho:iku-rusun (あれとかこれとかね買い続ける)

格助詞をうける。

?ari: ga ja: wakai sa (彼がねわかるさ)

mitji: nu ja: waffe: sa (道がね悪いさ)

?uja ne: ja: ?ju: sa (親にね言うよ)

mi: ga ja: ?iku: sa (見にね行くよ)

rufi: tu ja: ?asibun (友とね遊ぶ)

?umi ?gati ja: ?ikun (海へね行く)

nagu hara ja: ku:n (名護からね来る)

?ari jo:kan ja: ?u:sen (あれよりね強い)

kumi: si ja: sykojun (米でね作る)

tugutji ne:ti ja: ?a:jun (渡久地でね会う)

wakajun ri ja: ?ju: sa (わかるとねいうよ)

副助詞をうける。

?uttu bake: ja: (弟ばかりね)

nagu mari: ja: (名護までね)

taba:ku niga: ja: ?utjara ja nara n (煙草などね吸ってはいけない)

saki nre: ja: nurara ja nara n (酒などね飲んではいけない)

?an kure: ja: (あのぐらいだね)

?an ?atai ja: (あの程度だね)

ti:tji na: ja: (一つずつね)

?uppi ntja: ja: (これぼっちね)

ju:kuru ka ja: ke:ra n (日が暮れるまでね帰らない)

midji tjun ja: numa sa n (水さえね飲まない)

?uja jatin ja: mifira n (親でもね見せない)

係助詞をうける。

?ari: ja ja: ?ika n ro: (あれはね行かないよ)

?ari: n ja: ?ika n ro: (あれもね行かないよ)

?uri run ja: jarafi ne: nara n (これでもね行かせたらいけない)

?uttu ru ja: mitja:ru (弟をね見たのだ)

?uja ga ja: mitja:ra (親をね見たのかしら)

接続助詞をうける。

haki: ba ja: simu: sa (書けばねよ)

いさ)

haki ne: ja: wakara n ro: (書くと
ねわからないよ)

mi: figa ja: wakara n sa (見るけ
れどもねわからないさ)

mi: munnu ja: wakara n sa (見る
ものをねわからないよ)

jamu gutui ja: ?ja n sa (痛いのに
ねいわないよ)

wan ga haku: tu ja: simu: sa (私
が書くからねいいよ)

?iki gafina: ja: jure: (行きながらね
よりなさい)

mi:n saku: ja ja: jonna: mire: (見
るのならねゆっくり見なさい)

mitfan te: kan ja: wakara n sa
(見てもねわからないよ)

【接する形式】

終助詞 sa (さ, よ, ね), ça: (目下への
呼びかけ), sai (目上への呼びかけ)に接す
る。

?ari: ga hakun ja: sa (あれが書くよ
ね)

?ari: ga hakun ja: ça: (あれが書くよ
もう)

nama mi:n ja: sai (今見ますよ)

8. 20 ça: (目下への呼びかけ)

目下の相手へはたらきかける意を表わす。

【うける形式】

1) 動詞および動詞型助動詞の志向形, 命令型,
終止形, du係結形, ga係結形をうける。

dʒi: haka: ça: (字を書こうよ)

dʒi: hake: ça: (字を書けよ)

dʒi: hakun ça: (字を書くよ)

dʒi: ru haku: ru ça: (字を書くのだよ)

dʒi: ga haku: ra ça: (字を書くのかしら)

dʒi: haka sa ça: (字を書かそうよ)

dʒi: haka fe: ça: (字を書かせな
さいよ)

dʒi: haka sun ça: (字を書かせるよ)

dʒi: ru haka suru ça: (字を書かせる
のだよ)

dʒi: ga haka sura ça: (字を書かせる
のか)

2) 形容詞および形容詞型助動詞の終止形, du
係結形, ga係結形をうける。

?uri: ja nagafen ça: (これは長いよ)

?uri ga ru nagafe: ru ça: (これが長
いのだよ)

?uri ga ga nagafe: ra ça: (これが
長いのかしら)

ja: ʔgati ke: bufen ça: (家へ帰り
たいよ)

ja: ʔgati ru ke: bufe: ru ça: (家
へ帰りたいたいのだよ)

ja: ʔgati ga ke: bufe: ra ça: (家
へ帰りたいたいのかしら)

3) 体言をうける。

kuru: ma ça: (車だよ)

?ama ça: (あそこだよ)

4) 種々の助詞をうける。間投助詞的用法であ
る。

準体助詞をうける。

?uri: ja ?ui si ça: (これは売るもの
だよ)

ra: gara ça: (どこかだよ)

並列助詞をうける。

ʃikai si ja kwai tu hama: tu

ça: (使うのは鍬と鎌とだよ)

?ari nuja φuri nuja ɕa: ?itʃuna-
sanu (あれやらこれやら忙しくて)
muɕi: ka ?awa: ka ɕa: ?uira n
ne: nara n (麦か粟かね植えなくてはなら
ない)

kwa: jara ma:ga jara ɕa: ?adʒi-
kira ri:n (子やら孫やらあづけられる)
ti: tʃka ɕisa tʃka ɕa: ?arare:
(手とか足とか洗いなさい)

格助詞をうける。

?uttu ga ɕa: (弟がだよ)

ma: nu ɕa: (馬がだよ)

?uja ne: ɕa: (親にだよ)

tui ga ɕa: (取りにだよ)

?uja tu ɕa: (親とだよ)

nagu θgati ɕa: (名護へだよ)

φaru hara ɕa: (畑からだよ)

tʃo:re: jo:kan ɕa:(兄弟よりだよ)

ti: ʃi ɕa: (手でだよ)

φama ne:ti ɕa: (涙でだよ)

jumun ri ɕa: (読むということだよ)

副助詞をうける。

?ju: bake: ɕa: (魚ばかりだよ)

φaru mari: ɕa: (畑までだよ)

pi: niga: ɕa: mutarara ja nara
n (火などねもてあそんではいけない)

?umi nre: ɕa: ?idʒa:ra ja nara n
(海などね行ってはいけない)

tʃira kure: ɕa: ?arare: (顔などね洗
いなさい)

?an ?atai ɕa: (あのぐらだよ)

ti:tʃi na: ɕa: (一つずつだよ)

?uppi ntʃa: ɕa: ho:ra ri:n na (こ
れぽっちね買えるか。買えないという意)

haku: ka ɕa: ka: ntan (書くまでね来

なかった)

φanafsi: tʃun ɕa: sa n (話さえねしな
い)

ta: jatin ɕa: so:ti?ike: (誰でもね
つれていけ)

係助詞をうける。

?ari: ja ɕa: tʃu:ʃen (あれはね強い)

?ari: n ɕa: tʃu:ʃen (あれもね強い)

?ari run ɕa: waʃʃi ne: nara n
(あれなんぞね忘れたらいけない)

maja: nu ru ɕa: ke:ru (猫がね食う
のだ)

maja: nu ga ɕa: ke:ra (猫がね食う
のかしら)

接続助詞をうける。

ki: ba ɕa: ʃimu ʃiga (来ればねよい
が)

ki: ne: ɕa: nara n ro: (来るとね
いけないぞ)

mi: ʃiga ɕa: wakara n (見るけれども
ねわからない)

φataraku: munnu ɕa: ?atʃikajun na
(働くものをね叱るのか)

φataraku: gutui ɕa: ?atʃikara θke:
(働くのになね叱るな)

wan ga ?iku: tu ɕa: ʃimu: sa (私
が行くからねいいよ)

?akki gaʃina: ɕa: juma θke: (歩き
ながらね読むよ)

?ikun saku:ja ɕa: he:ku ?ike: (行
くのならね早く行け)

mitʃan te:kan ɕa: wakara n (見ても
ねわからない)

【接する形式】

終助詞 ja:(よ, ね)に接する。

tira nu ti:n ɕa: ja: (太陽が輝るよ
ね)

nama jumun ɕa: ja: (今読むよね)

8. 21 sai (目上への呼びかけ)

目上の関手へはたらきかける意を表わす。

【うける形式】

1) 動詞および動詞型助動詞の志向形, 命令形,
終止形, du係結形, ga係結形をうける。

dʒi: haka: sai (字を書きましょう)

nama haka sai (今書きます)

dʒi: ru haku:ru sai (字を書くのです)

dʒi: ga haku:ra sai (字を書くのかしら)

dʒi: hakjabira sai (字を書きましょう)

dʒi: haki nso:re: sai (字をお書きにな
って下さい)

dʒi: haki nso:jun sai (字をお書きにな
ります)

2) 形容詞および形容詞型助動詞の終止形, du
係結形, ga係結形をうける。

?ama: ja ?atʃi:sen sai (あそこは暑い
です)

?ama: ru ?atʃi:se:ru sai (あそこが暑
いのです)

?ama: ga ?atʃi:se:ra sai (あそこが暑
いのかしら)

?ama ʉgati ?iki bu:sen sai (あそこ
へ行きたいです)

?ama ʉgati ru ?iki bu:se:ru sai
(あそこへ行きたいのです)

?ama ʉgati ga ?iki bu:se:ra sai
(あそこへ行きたいのかしら)

3) 体言をうける。

kuru:ma sai (車です)

tudʒi sai (妻です)

4) 種々の助詞をうける。間投助詞的用法であ
る。

準体助詞をうける。

?uri: ja haku: ʃi sai (これは書く
ものです)

?uri: ja ?ukui ʃi sai (これは送る
ものです)

?ari: tu ?uri: tu sai (あれとこれ
とです)

ʃi:kanai ʃi ja ?wa: nuja pi:dʒa:
nuja sai (飼うのは豚やら山羊やらです)

so:ti?iku ʃi ja ?ari: ka ?uri:
ka sai (つれていくのはあれかこれかです)

?arai ʃi ja ?umu: jara re:kuni
jara sai (洗うのは芋やら大根やらです)

ʃi:kai ʃi ja ?o:ra tuka hama tu-
ka sai (使うのは畚とか鎌とかです)

格助詞をうける。

?ari ga sai (彼がです。「誰が行くのか」
の問いに対して)

tui nu sai (鳥がです。「なにが食うの
か」の問いに対して)

?uja ne: sai (親にです。「誰に言うのか」
の問いに対して)

mi: ga sai (見にです。「どこへ」の問
いに対して)

?uja tu sai (親とです。「誰と」の問
いに対して)

?uja ʉgati sai (親へです。「誰へ」の
問いに対して)

?uja hara sai (親からです。「誰から」
の問いに対して)

tʃo:re: jo:kan sai (兄弟よりです。「誰
より」の問いに対して)

ʔusu: ʃi sai (海水です。「なにで」
の問いに対して)

ɸaru ne:ti sai (烟です。「どこで」
の問いに対して)

hakun ri sai (書くということです)
副助詞をうける。

ki: bake: sai (木ばかりです)

ja: mari: sai (家までです)

ko:ju: niga: sai (鯉なんぞです)

ʈja: nre: sai numi nso:re: (お茶で
も飲んで下さい)

ʔan kure: sai (あのぐらいです)

ʔan ʔatai sai (あの程度です)

ta:ʈʃi na: sai (二つずつです)

ʔuppi ntʃa: sai (これぼっちです)

ju:kuiru ka sai (日が暮れるまでです)

ʈʃo:re: ʈʃun sai (兄弟さえです)

ʈʃo:re: jatin sai (兄弟でもです)

係助詞をうける。

ʔari: ja sai nara n ʃiga (あれは
です, だめですよ)

ʔari: n sai (あれもです)

ʔari run sai waffi: ne: nara n
(あんなんぞです, 忘れるといけない)

接続助詞をうける。

haki: ba sai ʃima bi: ʃiga (書け
ばです, いいのですが)

haki ne: sai nai bira n ʃiga
(書くとはです, いけません)

mi: ʃiga sai wakai jabira n (見
るけれどもです, わかりません)

haku: munnu sai ʃimi:ru su:ru (書
くものをです, いいじゃありません)

naku: tu sai mattʃyuki nso:re: (泣
くからですね, 待っていて下さい)

ʔakki gafina: sai ɸanafi: ʃi nso:re:
re: (歩きながらですね, 話して下さい)

mo:jun saku:ja sai he:ku mo:re:
(いらっしゃるならですね, 早くいらして下さい)

mitʃan te:kan sai wakai jabira n
(見てもですね, わかりません)

【接する形式】

他の終助詞には接しえない。

8, 22 ba (感動を伴って聞手へ訴える)

軽い驚き, または感動を伴って, 聞手へはた
らきかける。

【うける形式】

1) 動詞および動詞型助動詞の志向形, 命令形,
終止形, du係結形, ga係結形などをうける。

ʃiku:ʈʃi sa: ba (仕事しようよ)

ʃiku:ʈʃi ʃe: ba (仕事しなさいよ)

ʃiku:ʈʃi sun ba (仕事するよ)

ɸataraki: ru su:ru ba (働くのだよ)

ɸataraki: ga su:ra ba (働くのかしら)

ma: ʈgati ka: sa ba (ここへ来させ
ようよ)

ma: ʈgati ka: ʃe: ba (ここへ来させ
なさいよ)

ma: ʈgati ka: sun ba (ここへ来させ
るよ)

ma: ʈgati ru ka: suru ba (ここ
へ来させるのだよ)

ma: ʈgati ga ka: sura ba (ここへ
来させるのかしら)

2) 形容詞および形容詞型助動詞の終止形, du
係結形, ga係結形をうける。

mitʃi: nu ʈʃurafen ba (道がきれいだ
よ)

mitʃi: ru ʃuraʃe: ru ba (道がきれいなのだよ)

mitʃi: ga ʃuraʃe: ra ba (道がきれいなのかしら)

tiga:mi haki buʃen ba (手紙を書きたいよ)

tiga:mi ru haki buʃe: ru ba (手紙を書きたいのだよ)

tiga:mi ga haki buʃe: ra ba (手紙を書きたいのかしら)

3) 体言をうける。

ʔuri: ja ʔja: ʃiku: ʃi ba (これは君の仕事だよ)

ʔattʃa: ja nagu ba (明日は名護だよ)

4) 種々の助詞をうける。間投助詞的用法である。

準体助詞をうける。

ʔuri: ja hajasu ʃi ba (これは運ぶものだよ)

ra: gara ba (どこかだよ)

並列助詞をうける。

nokoi ʃi ja ʔja: tu wan tu ba (残るのは君と私とだよ)

hajasu ʃi ja ʃina nuja bubu: ru nuja ba (運ぶのは砂やら砂利やらだよ)

nokoi ʃi ja ʔja: ka wan ka ba (残るのは君か私かだよ)

ʔuri ke: ʃi ja ʔwa: jara pi: dʒa: jara ba (これを食うのは豚やら山羊やらだよ)

ʃikanai ʃi ja ma: tuka ʔufi tuka ba (飼うのは馬とか牛とかだよ)

格助詞をうける。

ʔari: ga ba (彼がだよ。「誰が」の問いに対して)

tui nu ba (鳥がだよ。「なにが」の問いに対して)

ʔuja ne: ba (親にだよ。「誰に」の問いに対して)

mi: ga ba (見にだよ。「なにしに」の問いに対して)

ʔuja tu ba (親とだよ。「誰と」の問いに対して)

ʔuja ʔgati ba (親へだよ。「誰へ」の問いに対して)

tugutʃi hara ba (渡久地からだよ。「どこから」の問いに対して)

ʃi: kwa: ʔui jo: kan ba (西瓜よりだよ。「なにより」の問いに対して)

hama: ʃi ba (鎌でだよ。「なにで」の問いに対して)

ja: ne: ti ba (家でだよ。「どこで」の問いに対して)

ʔikun ri ba (行くということだ)

副助詞をうける

jama bake: ba (山ばかりだよ)

ʔuttu mari: ba (弟までだよ)

ʃu: niga: ba ʔatʃikatara ja nara n (他人なんぞをね、叱ったらいけない)

tabaku nre: ba ʃuʃara ja nara n (煙草などね、吸ってはいけない)

ʔan kure: ba (あの程度だよ)

ʔan ʔatai ba (あのぐらいだよ)

ta: ʃi na: ba (二つずつだよ)

ʔuppi ntʃa: ba (これぼっちだよ)

tudʒumiru: ka ba ka: ntan (仕上げまで来なかった)

tunai ʃun ba (隣さだよ)

tunai jatin ba (隣でもだ)

係助詞をうける。

?ja: ja ba wure: (君はね, いなさい)

?ja: n ba wure: (君もね, いなさい)

?ari run ba jarafi ne: nara n

(あれなんぞね, 行かせたらいけない)

dzi: ru ba haku:ru (字をね, 書くのだ)

dzi: ga ba haku:ra (字をね, 書くのかしら)

接続助詞をうける。

miri: ba ba wakaju sa (見ればね, わかるさ)

mi: ne: ba wakaju sa (見るとね, わかるさ)

mi: figa ba wakara n (見るけれどもね, わからない)

mi: munnu ba mira n ri ?jun
(見るものを見ないという)

ke: gutui ba ka: n ri ?jun (食うのにね, 食わないという)

?ari: ga ?iku: tu ba ?ja: ja fi-
mu: sa (あれが行くからね君はいいよ)

jumi gafina: ba hake: (読みながらね書きなさい)

hakun saku:ja ba he:ku hake: (書くのならね早く書きなさい)

mitʃan te:kan ba wakara n (見てもねわからない)

終助詞をうける。

nama ?ikun ba: ba (今行くわけよ)

nama ?iku figa ba (今行くのにね)

nama ?iku: mu ba (今行くものをね)

nama ?iku: na ba (今行くなよ)

tan ga ?iku ga ba (誰が行くのかね)

?ari: ga ?iku ban ba (あれが行く

よほら)

?ari: ga ?ikun ro: ba (あれが行くぞほら)

?ari: ga sun jo: ba (彼がするよね)

nama ?ikun te: ba (今行くよね)

?ari: ga haku: sa ba (あれが書くよ)

?ari: ga ?ikun ɕa: ba (あれが行くよ)

【接する形式】

他の終助詞には接しえない。